OLYMPUS®

CAMEDIA

取扱説明書

デジタルカメラ

C-990ZOOM

■このたびは、オリンパス　デジタルカメラをお買い上げいただき、ありがとうございます。

■ご使用前にこの説明書をお読みください。

■大切なもの（海外旅行など）をお撮りになる前には、試し撮りをすることをおすすめします。

はじめに

このたびはオリンパス　デジタルカメラをお買上げいただき、ありがとうございます。この取扱説明書をよくお読みのうえ、安全に正しくお使いください。また、お読みになったあとは、必ず保管してください。

本取扱説明書をお読みになる前に

●本書の内容については将来予告なしに変更することがあります。商品名、型番など、最新の情報については、各アクセスポイントまでお問い合わせください。

●本書の内容については万全を期して作成しておりますが、万一ご不審な点、誤り、記載もれなど、お気づきの点がございましたらご連絡ください。

●本書の内容の一部または全部を無断で複写することは、個人としてご利用になる場合を除き、禁止されています。また、無断転載は固くお断りします。

●本製品の不適当な使用により、万一損害が生じたり、逸失利益、または第三者からのいかなる請求に関し、当社では一切その責任を負いかねますのでご了承ください。

●本製品の故障、オリンパス指定外の第三者による修理、その他の理由により生じた画像データの消失による、損害および逸失利益などに関し、当社では一切その責任を負いかねますのでご了承ください。

●本製品で撮影された画像の質は、通常のフィルム式カメラの写真の質とは異なります。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書にしたがって正しい取り扱いをしてください。

飛行機内では、離発着時のご使用をお避けください。

本製品の接続の際、当製品指定のケーブルを使用しない場合、VCCI基準の限界値を超えることが考えられます。必ず、指定のケーブルをご使用ください。

商標について

Windowsは米国Microsoft Corporationの登録商標です。

MacintoshおよびAppleは米国アップルコンピュータ社の登録商標です。

その他本説明書に記載されているすべてのブランド名または商品名は、それらの所有者の商標または登録商標です。

カメラファイルシステム規格とは、日本電子工業振興協会（JEIDA）で制定された規格「Design rule for Camera File system/DCF」です。

目 次

1 準備をしましょう

2 これだけで撮影できます

3 画像を再生しましょう

4 上手に撮影しましょう

5 撮影の上級テクニック

6 再生の上級テクニック

7 プリントしましょう

8 パソコンで撮影画像を加工しましょう

9 付 録

安全にお使いいただくために

この取扱説明書では、製品を正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害と財産の損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

⚠ **危険**	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う差し迫った危険の発生が想定される内容を示しています。

⚠ **警告**	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠ **注意**	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

電池使用上のご注意

次のことをお守りにならないと、電池の液もれ、発熱、発火、破裂や感電、やけどの原因となります。

⚠ 危険

1. ニッケル水素電池は、専用のオリンパス製蓄電池と充電器をご使用ください。
2. ＋－を逆にして装着・使用しないでください。また、機器にうまく入らない場合は無理に接続しないでください。
3. 直接ハンダ付けしたり、変形や改造・分解をしないでください。端子部安全弁の破壊やアルカリ液の飛散が生じ危険です。
4. ＋－を金属等で接続したり、金属製のネックレスやヘアピンなどと一緒に持ち運んだり、保管しないでください。
5. 電源コンセントや自動車のシガレットライターの差し込みなどに、直接接続しないでください。
6. 火中への投下や、加熱をしないでください。
7. 電池の液が目に入った場合は、失明の原因になります。こすらずにすぐ水道水などのきれいな水で充分に洗い流し、直ちに医師の治療を受けてください。

⚠警告

1. 電池を水や海水などにつけたり、端子部を濡らさないでください。
2. 電池の液漏れ、発熱、発火、破裂により、火災やけがのおそれがあります。
   - このカメラで指定されていない電池を使わないでください。
   - ショートや分解をしないでください。
   - 古い電池と新しい電池、充電した電池と放電した電池、また、乾電池と蓄電池、および容量、種類、銘柄の異なる電池を一緒に混ぜて使用しないでください。
   - 充電できないアルカリ電池やリチウム電池を充電しないでください。
   - 外装シール（絶縁被覆）を一部またはすべて剥がしている電池や、破れがある電池をご使用になりますと、電池の液漏れ、発熱、破裂の原因になりますので、絶対にご使用にならないでください。市販されている電池の中にも、外装シール（絶縁被覆）の一部またはすべてが剥がれている電池があります。このような電池も絶対にご使用にならないでください。
3. ニッケル水素電池の充電が所定充電時間を越えても完了しない場合は、充電を中止してください。
4. 液漏れしたり、変色、変形その他異常を見つけたときは使用しないでください。
5. 電池を誤って飲まないよう乳幼児の手の届かぬ場所で保管および使用してください。万一飲み込んだ場合は、直ちに医師に相談してください。
6. 電池の液が皮膚・衣類へ付着したときは、直ちに水道水などのきれいな水で洗い流してください。皮膚に障害を起こす原因になります。
7. カメラの電池室を変形させたり、異物を入れたりしないでください。

⚠注意

1. オリンパス製ニッケル水素電池はオリンパスデジタルカメラ「キャメディア」専用です。他の機器に使用しないでください。
2. 電池に強い衝撃を与えたり、投げたりしないでください。
3. 蓄電池は必ず４本（機種によっては２本）同時に充電してご使用ください。
4. 蓄電池をお買い上げ後に初めてご使用になる場合、または長時間使用しなかった場合は、必ず充電してください。
5. 長期間ご使用にならない場合は、カメラから電池を外しておいてください。電池の液漏れ、発熱により、火災やけがの原因になります。
6. 液漏れや、変色、変形その他異常が発生した場合は使用を中止し、販売店またはオリンパスサービスステーションにご相談ください。火災や感電の原因となります。

7. 強い日なた、炎天下の車内やストーブの前面など高温の場所で使用･放置しないでください。
8. 電池を使ってカメラを長時間連続使用した後は、すぐに電池を取り出さないでください。やけどの原因となります。

その他取り扱い上のご注意

⚠ 警告

1. フラッシュを人（特に乳幼児）に向けて至近距離で発光しないでください。目に近づけて撮影すると、視力に回復不可能なほどの傷害をきたすおそれがあります。特に乳幼児に対して 1m 以内の距離で撮影しないでください。
2. 日光および強い光に向けて本製品を使用しないでください。目に回復不可能なほどの傷害をきたすおそれがあります。
3. 可燃性ガスおよび爆発性ガスなどが大気中に存在するおそれのある場所での本製品の使用はおやめください。引火・爆発の原因となります。
4. この製品を幼児、子供の手の届く範囲に放置しないでください。以下のような事故発生のおそれがあります。
   - 誤ってストラップを首に巻き付け、窒息を起こす。
   - 電池や小さな付属品を飲み込む。万一飲み込んだ場合は直ちに医師にご相談ください。
   - 目の前でフラッシュが発光し、視力に回復不可能なほどの障害を起こす。
   - カメラの動作部でけがをする。
5. 湿気やほこりの多い場所にカメラを保管しないでください。火災や感電の原因となります。
6. フラッシュの発光部分を手で覆ったまま発光しないでください。また、連続発光後、発光部分に手を触れないでください。やけどのおそれがあります。
7. 万一、水に落としたり、内部に水が入ったりしたときは、速やかに電池を抜き、販売店またはオリンパスサービスステーション（裏面参照）にご相談ください。火災や感電の原因となります。

⚠ 注意

1. 異臭、異常音、もしくは煙が出たりするなどの異常が生じた場合は、やけどに注意しながらすぐに電池を取り外し、最寄りのサービスステーションにご連絡ください。火災や、やけどの原因となります。（電池を取り出す際は、素手で電池を触らないでください。また、可燃物のそばを避け、屋外で行ってください。）
2. 本製品の分解、改造はしないでください。感電やけがをする原因となります。
3. 濡れた手で操作しないでください。感電の危険があります。
4. 異常に温度が高くなるところに置かないでください。部品が劣化したり、火災の原因となります。

ご使用の前に

お取り扱いについて

●本製品には精密な電子部品が組み込まれています。以下のような場所で本製品を使用または保管した場合、動作不良や故障の原因となりますので絶対に避けてください。

- 直射日光下や夏の海岸など
- 高温多湿、または温度・湿度変化の激しい場所
- 砂、ほこり、ちりの多い場所
- 火気のある場所
- 冷暖房器、加湿器のそば
- 水に濡れやすい場所
- 振動のある場所
- 自動車の中

●カメラを落としたりぶつけたりして、強い振動やショックを与えないでください。

●レンズを直射日光に向けて放置しないでください。CCDの褪色・焼きつきを起こすことがあります。

●長期間使用しないと、カビがはえたり故障の原因になることがあります。使用前には動作点検をされることをおすすめします。

●三脚に取り付ける際、カメラを回さないでください。

●本体の電気接点部には手を触れないでください。

●フラッシュを短時間に何度も発光させると、発光部の温度があがることがありますので、直接手を触れないでください。

●レンズに無理な力を加えないでください。

電池について

●電池はCR-V3（当社製LB-01）リチウム電池パック２個、あるいは単３ニッケル水素電池、ニッカド電池、アルカリ電池、リチウム電池４本を使用します。

●撮影条件、使用環境および電池により撮影枚数が減少する場合があります。

●オリンパス製ニッケル水素電池をおすすめします(充電器セット BU-40SNH／BU-40S／B-31S／B-30S)。繰り返し使用でき経済的です。また、低温時のご使用にも有効です。

●アルカリ電池は使用できますが、電池の銘柄、製造日からの保存期間、使用温度により内部抵抗・容量に差があるため、ニッケル水素電池に比べて寿命が極端に短い場合があります。また、低温時は使えません。

●マンガン電池は使用できません。電池寿命が短いばかりでなく、電池の発熱などにより本体に損害をもたらすおそれがあります。

●電池は正しく使いましょう。誤った使いかたは液漏れ・発熱・破損の原因となります。交換するときは、＋－の向きに注意して正しく入れてください。

●電池は、一般に低温になるにしたがって一時的に性能が低下します。寒冷地で使用するときは、カメラを防寒具や衣服の内側に入れるなどして保温しながら使用してください。なお、低温のために性能の低下した電池は、常温に戻ると回復します。

●電池の＋－極が汗や油で汚れていると、接触不良をおこす原因になります。乾いた布でよく拭いてからお使いください。

●長期間の旅行などには、予備の新しい電池を用意することをお勧めします。特に海外では、地域によって入手困難なことがあります。

●ニッケル水素電池およびニッカド電池をご使用になる際は、必ず電池で指定された充電器で完全に充電してからお使いください。

●ニッケル水素電池およびニッカド電池をご使用になる際は、電池、充電器等の説明書をよく読んで、正しくお使いください。ニッカド電池を捨てる際は、地域の規定に従って処分してください。

●シール（絶縁被覆）をすべて剥がしている電池（裸電池）は、危険ですので絶対にご使用にならないでください。

●ニッケル水素電池ご使用推奨温度範囲

放電（機器使用時）：０℃～４０℃

充電：０℃～４０℃

保存：－２０～３０℃

上記温度範囲外での使用は性能・寿命の低下の原因となります。保管の際はカメラから電池を取り出してください。

液晶画面とバックライトについて

●本製品の液晶モニタに使用されている液晶画面のバックライトおよびコントロールパネルには寿命があります。画面が暗くなったり、ちらつき始めたら、当社サービスステーションにお問い合わせください。（保証期間外の修理は有料となります。）

●一般に低温になるにしたがってバックライトは点灯に時間がかかったり、一時的に変色したりする場合があります。寒冷地で使用するときは、保温しながら使用してください。低温のために性能の低下したバックライトは、常温に戻ると回復します。

●本製品の液晶画面は精密度の高い技術でつくられていますが、一部に常時点灯する画素あるいは常時点灯しない画素が存在することがあります。また、見る角度により、特性上、色や明るさにむらが生じることがあります。これらは液晶画面の構造によるもので故障ではありません。ご了承ください。

主な特長

- 高画質211万画素CCD（総画素数）と高性能レンズで、クラス最高レベルの画像を撮影できます。
- 3倍ズームレンズと2.5×デジタルテレモードをあわせ、最大7.5倍ズーム相当の撮影ができます。
- 枚数を気にせずに撮影できるよう、取り外し可能なスマートメディアを採用しています。
- 静止画に加えて、動画の撮影と再生ができます（P.92、P.110）。
- ビデオ出力端子を使って、画像をテレビに再生して楽しめます（P.55）。＊
- 別売の機能付スマートメディアを使えば、合成画像も簡単に作れます（P.14）。
- プリント予約機能を使うと、DPOF規格に対応したプリンタやラボで自動的にプリントできます（P.121）。
- 光学ファインダに加え、1.8型液晶モニタもファインダとして使えます（P.39、P.42）。
- 再生時、液晶モニタに3倍に拡大表示して写り具合を確認できます（P.54）。
- 露出補正（P.80）やスポット測光（P.82）などの多機能を、簡単なメニュー操作で活用できます。
- 従来のC-900ZOOMシリーズに比べて、スマートメディアへの書き込み時間が短くなりました。シャッターチャンスを逃さず撮影できます。
- 電池駆動、軽量、コンパクトサイズで携帯性に優れています。

＊NTSC方式テレビ用です。海外では地域によりご利用になれません。

デジタルカメラならではの楽しみかた

機能付スマートメディアで機能を追加

オリンパスのスマートメディア（以後、カード）を使うと、通常の撮影だけでなく、下記の機能もお楽しみいただけます。

パノラマ合成機能

パノラマ合成機能付の標準カード（8MB=同梱 / 8・16・32・64MB=別売）と別売のCAMEDIA Master 2.0を使って、パノラマ画像を合成できます（P.95）。

合成テンプレート機能

テンプレートカードM-4T（4MB=別売）を使って、画像を合成できます。

カレンダー機能

カレンダーカードM-4C（4MB=別売）を使って、カレンダーを作れます。

手書きタイトル機能

手書きタイトルカードM-4N（4MB=別売）を使って、タイトル入り画像を作れます。

動きでしか表現できない映像も

動画の撮影もできるので、静止画では表現できない場面も記録に留められます。8MBのカードを使う場合、画質によって最大で約24〜106秒間、撮影できます（P.37、P.92）。

動画の保存形式は業界標準のM-JPEG形式（拡張子MOV）です。

撮影した画像をプリントアウト

専用プリンタ（P-330N・P-330=別売）を使うと、カードに保存された画像を簡単にプリントできます（P.127）。

DPOF対応のプリンタやラボでは、カードを持ち込むだけで、選んでおいた静止画をプリントできます。持ち込む前に、あらかじめカメラで画像を選択しておきましょう（P.124）。

パソコンでもっと活用しましょう

CAMEDIA Master 2.0（別売）を使ってデータをパソコンに保存したり、プリントしたりできます。さらに、パノラマ画像を合成するなど加工もできます。

お手持ちのパソコン接続キット（C-1KP/C-2KP/C-3KP/C-4KP/C-5KP/C-6KP/C-7KP）のソフトは、ご使用になれません。

その他にも

通信アダプタT-100HS（別売）とPCカードモデムを組み合わせると、携帯電話で画像を伝送できます。

テレビに接続して、大きな画面で画像を見られます。

この冊子の読みかた

この冊子は、本機（以後、カメラ）の使いかたに応じて、9 つの章に分かれています。

1 章　準備しましょう

箱に入っている物の確認、カメラの各部の名称、はじめて使うときの準備について説明されています。お買い上げ後にはじめて使うときは、必ずお読みください。

2 章　これだけで撮影できます

電源を入れて静止画を撮影し、写り具合を確認してから電源を切るまでの操作について説明されています。この章を読むだけで、気軽な撮影が楽しめます。必ずお読みください。

3 章　画像を再生しましょう

何枚か撮影すると、撮影済みの画像をまとめて確認したり、テレビにつないで鑑賞したりしたくなります。ここでは、電源を入れてから、画像を再生して電源を切るまでの操作について説明されています。前章で何回か撮影したあとで、お読みください。

4 章　上手に撮影しましょう

ピント合わせやフラッシュの使い分けなど、カメラのボタンを押すだけで設定できる知っておくと便利な機能について説明されています。何回か撮影し、2 章の操作に慣れてからお読みください。

5 章　撮影の上級テクニック

動画を撮影する機能と、撮影のときに役立つさまざまな機能について説明されています。それぞれの機能ごとに、必要に応じてお読みください。

6 章　再生の上級テクニック

動画を再生したり編集したりする機能と、再生のときに役立つ機能について説明されています。それぞれの機能ごとに、必要に応じてお読みください。

7章　プリントしましょう

DPOF対応のプリンタやラボでは、スマートメディアを持ち込むだけで、選んでおいた静止画をプリントできます。ここでは、カメラで画像を選択して日付プリント予約などを設定する方法について説明されています。必要に応じてお読みください。

8章　パソコンで撮影画像を加工しましょう

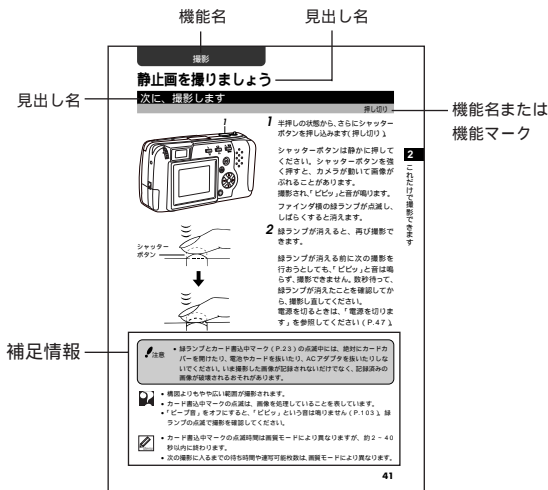
CAMEDIA Master 2.0（別売）を使うと、画像をパソコンに送り、さらに加工することができます。ここでは、画像をパソコンに読み込む方法と、CAMEDIA Master 2.0の主な機能を紹介しています。

9章　付録

故障かなと思ったときの対処方法や、主な仕様などについて説明されています。必要に応じてお読みください。

記号の意味

本書では、次の表記が使われています。

これらの要素は、ページによって使われないことがあります。

※見出しの上下の機能名や機能マークは、情報を探すときの参考にしてください。

補足情報の記号

ページの下側にある記号には、次の意味があります。

操作中に起こりうるトラブルや、トラブルのように見える現象についての情報です。

知っておくと役に立つ知識です。

1

準備をしましょう

箱に入っている物の確認、カメラの各部の名称、はじめて使うときの準備について説明されています。
お買い上げ後にはじめて使うときは、次のページから順にお読みください。

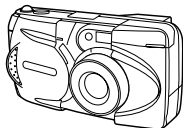
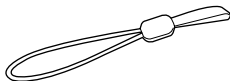
中身を確認しましょう

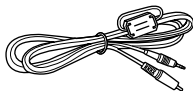
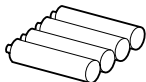
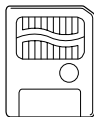
カメラ本体

ストラップ

単 3 アルカリ電池（4 本）

スマートメディア（8MB）

スマートメディア取扱説明書

**スマートメディア用ライト
プロテクトシール（4 枚）**

カメラケース

ビデオケーブル

取扱説明書／保証書／愛用者カード

スマートメディア用静電気防止ケース

スマートメディア用ラベル（2 枚）

各部の名称

カメラ本体

シャッターボタン(P.40)
ズームレバー(P.44)
コントロールパネル(P.23)
セルフタイマランプ(P.74)
フラッシュ(P.45)
レンズバリア
(P.34)
レンズ
コネクタカバー
ビデオ出力端子
(P.55)
DC入力端子
(P.27)
カードカバー
(P.28)
データ入出力端子
(P.132)

カメラ本体（つづき）

フラッシュ切替ボタン(P.65)
/消去ボタン(P.57)

セルフタイマボタン(P.74)/
プリントボタン(P.123)

マクロ・デジタルテレボタン
(P.70/72)/プロテクトボタン
(P.56)

ファインダ(P.60)

液晶モニタボタン
(P.29)

視度調整
ダイヤル
(P.31)

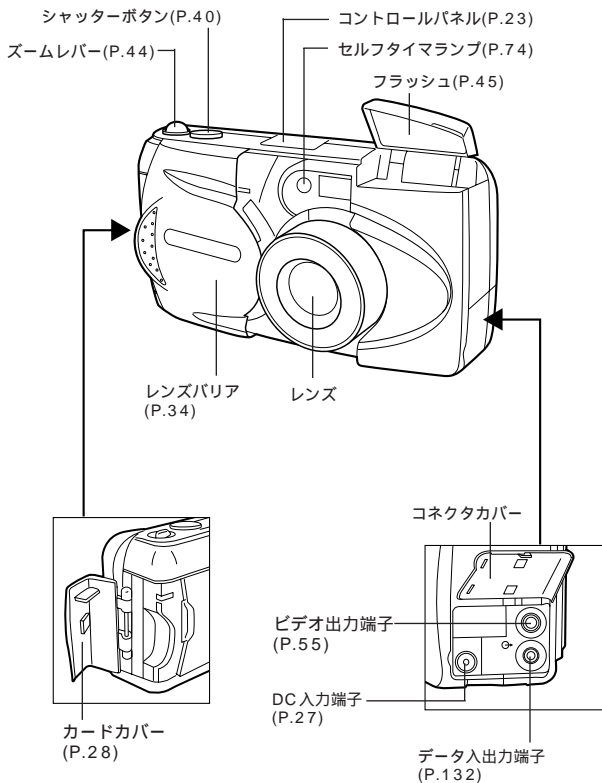
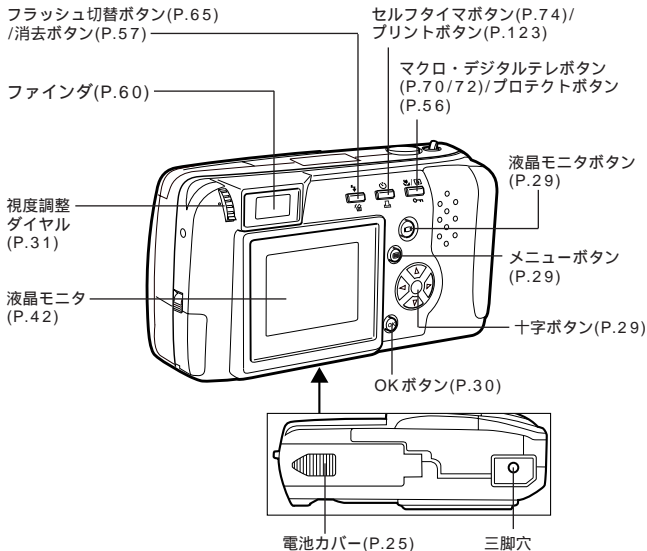
メニューボタン
(P.29)

液晶モニタ
(P.42)

十字ボタン(P.29)

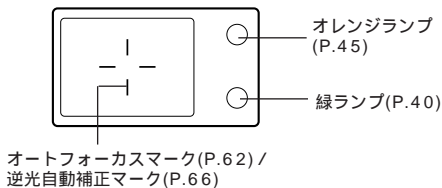
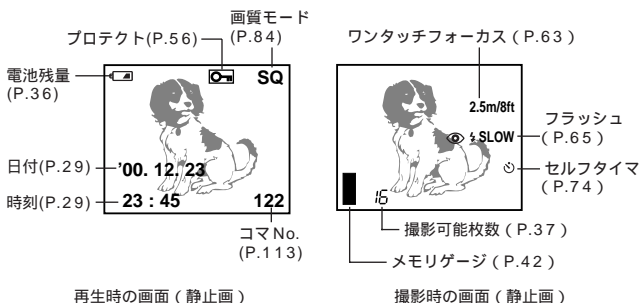
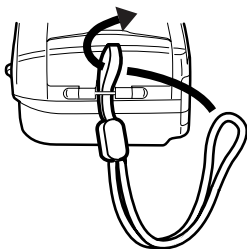
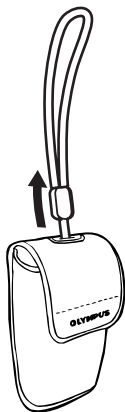
OKボタン(P.30)

電池カバー(P.25)

三脚穴

ファインダ

コントロールパネル

液晶モニタ

再生時の画面（静止画）　　**撮影時の画面（静止画）**

ストラップ・カメラケースを取り付けます

1 **カメラにストラップを取り付けます。**

2 **ストラップをカメラケースに通します。**

- **上記にしたがって正しく取り付けてください。万一、誤った取り付けによりストラップが外れてカメラを落とした場合、損害など一切の責任は当社では負いかねますのでご了承ください。**

電池を入れます

電池は単3アルカリ電池、ニッケル水素電池、リチウム電池、またはニッカド電池を4本使用します。あるいは、リチウム電池パックCR-V3（当社製LB-01）を2個使用します。

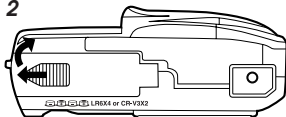
異なる種類の電池を混ぜたり、電池の方向を間違えたり、マンガン電池を使用したりしないでください。発熱によりカメラが破損することがあります（P.7、P.11）。

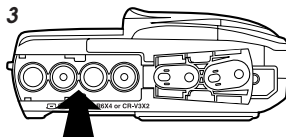
2

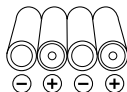
3

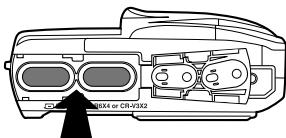
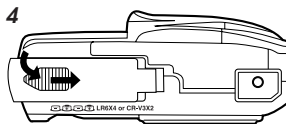
単3電池の場合

リチウム電池パックの場合

4

1 電源が切れていることを確認します。

レンズバリアが閉じています。
液晶モニタとコントロールパネルが消えています。

2 電池カバーを横にずらし、引き上げます。

3 図のように電池の向きを正しく合わせて入れます。

リチウム電池パックは、「CAMEDIA」のラベルがレンズ側に来るようにして入れます。

4 [グリップ] 部分を押し、電池カバーが閉じた状態で横にずらしてロックします。

電池カバーが閉まりにくいときは無理に押さず、電池カバーをカバーの刻印の「OPEN」の方向へ押しながら閉めてください。

注意

- **CR-V3（当社製LB-01)リチウム電池パックは、充電できませんのでご注意ください。**
- **アルカリ電池は性能のバラツキが大きく、特に低温では劣化します。リチウム電池パックまたはニッケル水素電池のご使用をおすすめします。**
- **マンガン電池は使用できません。電池に関するご注意をお読みください(P.11)。**
- **電池室内の電極が汚れていると、電池の寿命が著しく短くなります。電池を外した状態で内部を触らないでください。**
- **電池とACアダプタ（別売）を外した状態で１時間放置すると、すべての設定は初期設定に戻ります。**

⚠ 警告

外装シール（絶縁被覆）を一部またはすべて剥がしている電池や、破れがある電池をご使用になりますと、電池の液漏れ、発熱、破裂の原因になります。絶対にご使用にならないでください。市販されている電池の中にも、外装シール（絶縁被覆）の一部またはすべてが剥がれている電池があります。このような電池も絶対にご使用にならないでください。

下記のような形状の電池はご使用になれません

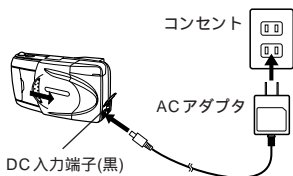
シール（絶縁被覆）をすべて剥がしているもの（裸電池）、または一部が剥がされているもの

負極（マイナス面）が平らな電池で、負極の一部がシール（絶縁被覆）で覆われているもの

負極（マイナス面）の一部に膨らみがあるが、負極がシール（絶縁被覆）で覆われていないもの

負極（マイナス面）が平らな電池で、負極がシール（絶縁被覆）で覆われていないもの

AC アダプタ（別売）を使う場合

専用ACアダプタ（C-6AC/C-7AC=別売）を接続すると、ご家庭のコンセント（AC100V）を利用できます。

注意
- ACアダプタE-7ACはご使用になれません。
- ACアダプタを長時間接続するとACアダプタが少し熱を持ちますが、故障ではありません。

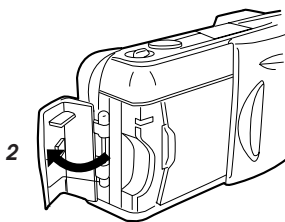
⚠ 警告

火災・感電・やけどのおそれがあります。

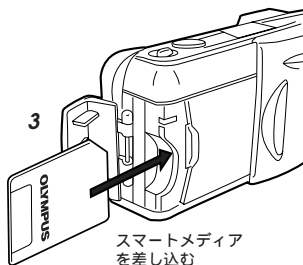
- 電源は必ずAC100Vをご使用ください。
- 専用ACアダプタは日本国内でのみ使用可能です。外国では使用しないでください。
- ACアダプタの差し込みが不完全な状態では使用しないでください。
- 濡れた手でACアダプタを絶対に抜き差ししないでください。
- 万一ACアダプタやコードが熱い、焦げ臭い、煙が出るなどの異常が発生した場合、直ちにACアダプタをコンセントから抜いて使用を中止してください。さらに、直ちに販売店または当社サービスステーションにご相談ください。
- 専用のACアダプタ（EIAJ規格・極性統一型プラグ付）以外は絶対に使用しないでください。カメラまたは電源が故障したり、思わぬ事故が起きる可能性があります。専用以外のACアダプタの使用により生じた障害は保証しかねますので、あらかじめご了承ください。
- ACアダプタをコンセントから抜くときは、必ずACアダプタの本体を持って抜いてください。
- ACアダプタのコードを無理に引っ張ったり、折り曲げたり、ねじったり、継ぎ足したりすることは絶対にやめてください。
- ACアダプタのコードに傷、断線、またはプラグに接触不良があったりした場合は、すぐにお買い上げの販売店にご相談ください。
- ACアダプタを接続したり外したりするときは、カメラに電池が入っているか否かに関わらず、必ずカメラの電源が切れていることを確認してください。
- 使用しないときは、必ずコンセントからACアダプタを取り外してください。

スマートメディアをセットします

撮影前に、必ずスマートメディア（以後、カード）をセットしておきます。

スマートメディアを差し込む

1 電源が切れていることを確認します。

レンズバリアが閉じています。
液晶モニタとコントロールパネルが消えています。

2 カードカバーを開けます。

3 カードを図の方向に差し込みます。

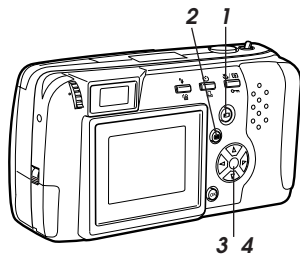
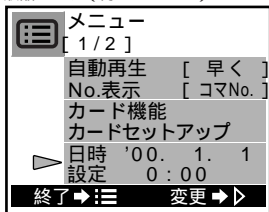
機能付スマートメディア（別売）を使用する場合も同様に差し込みます。
市販の5Vカードは使用できません。当社のカードまたは市販の3V（3.3V）カードをご使用ください。
市販の3V（3.3V）カードをご使用の場合、カメラでの初期化をおすすめします（P.117）。

4 カードカバーをカチッというまで閉じます。

注意

- カメラの電源が入っているときは、絶対にカードカバーを開けたり、カードや電池を取り出したり、ACアダプタを抜いたりしないでください。カード内の画像データが破壊されることがあります。破壊された画像データの復旧はできません。
- カードは精密機器です。無理な力や衝撃を与えないでください。
- カードの金色の部分には直接手を触れないでください。

日付／時刻を設定します

電池を抜いて放置したり、電池が切れていると、日時の設定が消えたり遅れたりします。大切な撮影の前には、日時の設定が正しいことを確認してください。

液晶モニタ（再生メニュー）

液晶モニタ（日時設定画面）

1 レンズバリアが閉じていることと、カードがセットされていること（P.28）を確認し、液晶モニタボタンを押します。

液晶モニタに画面が表示されます。

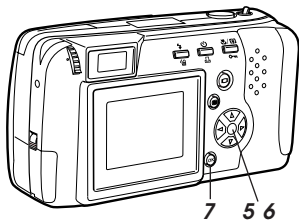
2 メニューボタンを押します。

液晶モニタに再生メニューが表示されます。

3 十字ボタンの △ ▽ を押して画面の矢印を動かし、「日時設定」に合わせて ▷ を押します。

日時設定画面が表示されます。

4 十字ボタンの △ ▽ を押して日付の順序を
YMD（年・月・日）
MDY（月・日・年）
DMY（日・月・年）
の中から選択し、▷ を押します。

数値の設定に移動します。

液晶モニタ（日時設定画面）

5 **十字ボタンの △ ▽ を押して最初の数値を設定し、▷ を押します。**

次の数値に移動します。

6 **同様の操作を繰り返し、時刻まで入力します。**

2000年は「'00」と表示されます。

7 **0秒の時報に合わせて、OKボタンを2度押します。**

日時が設定され、再生メニューが消えます。

日時の設定をキャンセルするときは

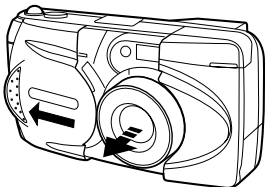
手順7で、OKボタンの代わりにメニューボタンを押します。

あなたの目に合わせます

より使いやすくするために、お使いになる方の目に合わせてファインダを調節しておきましょう。

1 レンズバリアをスライドさせる

2 視度調整ダイヤル

3 ファインダ

オートフォーカスマーク

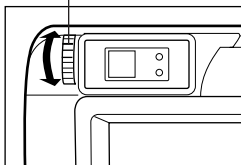
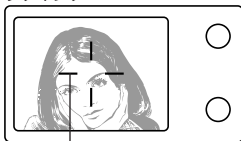
1 レンズバリアを、カチッと音がするまでスライドさせます。

電源が入り、レンズがせり出します。

2 ファインダをのぞきながら、視度調整ダイヤルを少しずつ回します。

3 オートフォーカスマークがはっきりと見えるところで、ダイヤルを止めます。

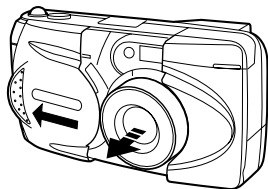
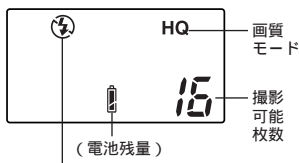
4 撮影の準備が整いました。

2章を順にお読みください(P.33)。
ひとまず電源を切るときは「電源を切ります」を参照してください(P.47)。

2

これだけで撮影できます

カメラの使いかたを覚えるには、使ってみるのが一番の近道です。ここでは、電源を入れて静止画を撮影し、写り具合を確認してから電源を切るまで操作してみましょう。
この章は、次のページから順に、カメラを操作しながらお読みください

電源を入れます

レンズバリアをスライドさせる

コントロールパネル

フラッシュを開けていない場合は⚡アイコンが点灯します。

1 レンズバリアを、カチッと音がするまでスライドさせます。

撮影モードで電源が入り、レンズがせり出します。

コントロールパネルに左図の情報が表示されます。

電池残量のマークは、しばらくすると消えます。

電源を切るときは、「電源を切ります」を参照してください（P.47）。

節電状態になったら

3分間なにも操作しないと、節電状態になってコントロールパネルの表示が消えます。撮影を再開するには、次のどちらかを行ってください。

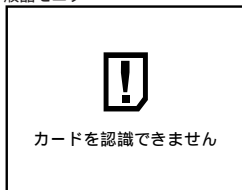
- シャッターボタンやズームレバーを軽く押す。
- レンズバリアをいったん閉めて（P.47）、再び開く。

約4時間たつと自動的に電源が切れますが、しばらく撮影しないときはできるだけ電源を切っておいてください。また、新品電池をお使いの場合は、電池の種類によっては電源が切れるまでの時間は長くなります。

• カメラの動作中は、絶対にカードカバーを開けたり、カードや電池を取り出したり、ACアダプタを抜いたりしないでください。カード内のデータが破壊されることがあります。

表示を確認しましょう

スマートメディアは使えますか

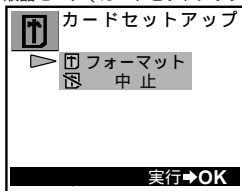
カードを入れ忘れていたり、カードに問題があるときは、液晶モニタが自動的に点灯してメッセージが表示されます。メッセージの指示に従ってください。

カードを認識できません

「カードを認識できません」と表示されたら

カードが入っていないか、しっかりと差し込まれていないかもしれません。
電源を切ってから（P.47）、カードを入れ直してください。

そのほかのメッセージが表示されたら

液晶モニタの表示に従ってください。詳しくは「エラーメッセージ表」を参照してください（P.151）。

液晶モニタ（カードセットアップ）

カードセットアップ画面が表示されたら

初期化が必要なカードを入れています。詳しくは「カードを初期化する」を参照してください（P.117）。

電池は残っていますか

撮影モード（レンズバリアの開いた状態）で電源が入ると、コントロールパネルに電池残量の目安が表示されます。

が点灯（自動的に消えます）。
電池の残量は十分です。撮影できます。

が点滅し、コントロールパネルの他の表示は通常通り点灯。
電池の残量が少なくなりました。新しい電池と交換してください。
撮影は可能ですが、途中で電池が切れる恐れがあります。

が点滅し(約10秒後に消灯)、コントロールパネルの他の表示は消灯。
電池の残量がなくなりました。新しい電池と交換してください。

注意

- **長期の旅行、大切な行事、寒冷地での撮影などには予備の電池をご用意になることをお勧めします。**
- **電池残量がなくなると、撮影後または電源を入れたときに「ピピピ・・・」と連続して警告音が鳴り、コントロールパネルのコマNo.が点滅することがあります。このような場合は撮影が正常に行なわれておりません。新しい電池に交換のうえ、改めて撮影を行なってください。**
- **ニッケル水素電池をお使いの場合は、リチウム電池パックをお使いのときよりも早く電池残量警告が点滅します。**

撮影可能枚数は十分ですか

撮影モード（レンズバリアの開いた状態）で電源が入ると、コントロールパネルに撮影可能枚数が表示されます。

コントロールパネル

- 撮影可能枚数が 0 になると「ピー」という音が鳴り、緑ランプが点滅し、液晶モニタには「撮影可能枚数が 0 です」と表示されます。(P. 151)
- 撮影可能枚数と秒数は画質モード（P.84、P94）によって変わります。

撮影可能枚数（おおよその枚数です）

画質モード / 画素数 / スマートメディアの記憶容量	SQ		HQ	SHQ	
画素数	640x480		1600x1200		
	SQ	SQ-高画質	HQ	SHQ	SHQ-TIFF
2MB	20	7	3	1	0
4MB	40	16	7	2	0
8MB	82	32	16	5	1
16MB	165	66	31	11	2
32MB	331	132	64	22	5
64MB	665	266	128	45	11

動画撮影可能秒数（おおよその秒数です）

画質モード	記録サイズ	スマートメディアの記憶容量					
		2MB	4MB	8MB	16MB	32MB	64MB
HQ	320x240	5	11	23	48	96	193
SQ	160x120	25	51	104	211	424	851

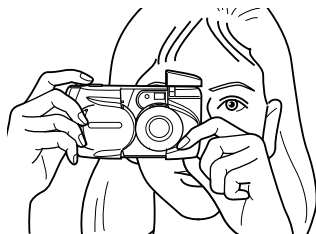
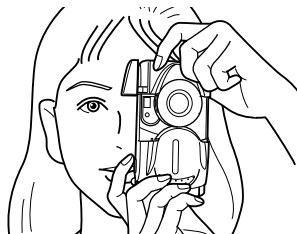
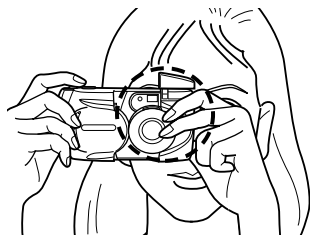
※１回に撮影できる秒数には制限があります（P.94）。

- 撮影対象によりデータ量が異なるため、枚数や秒数が若干増減することがあります。
- 撮影ごとにカウンタが減らなかったり、1 枚消去しても増えない場合があります。
- 撮影可能枚数（秒数）が 999 を越える場合、コントロールパネルの表示はすべて「999」と表示されます。より正確な数字は液晶モニタに表示されます。

カメラを正しく構えましょう

正しい構えかた

両手でしっかりカメラを持ち、脇をしっかりしめます。

たて位置のときは、フラッシュが上になるようにします。

よこ位置 **たて位置**

間違った構えかた

レンズとフラッシュに、指やストラップがかからないようにご注意ください。

距離によって撮りかたを変えます

撮影したいもの（被写体）との距離によって、特別な操作が必要な場合や、液晶モニタを使用した方が良い場合があります。撮影するときは、被写体とのおおよその距離を知っておきましょう。

スナップや風景を撮影するとき（約 1.5 m ～ ∞）

ファインダを使って撮影することをお勧めします（P.40）。

人物のアップを撮影するとき（0.8 m ～ 約 1.5 m）

ファインダを使って撮影できますが、液晶モニタを使うと良い場合もあります（P.42）。詳しくは、下のコラムを参照してください。

特別に近くを撮影するとき（0.2 m ～ 0.8 m）

マクロ機能を使って撮影してください（P.70）。マクロ機能を使わなくても撮影できますが、ピントと露出があわずに正しく撮れないことがあります。

ファインダと液晶モニタの特徴

撮影する範囲を決めるとき、このカメラではファインダに加えて液晶モニタも利用できます。このときにファインダをのぞくか、液晶モニタに表示するかは、それぞれの特徴を考えて使い分けてください。

ファインダ

長所：カメラがぶれにくく、電池の消耗を抑えます。

短所：近くのものを撮影するときに、ファインダの外枠と撮影画像との間にズレが生じます（P.60）。

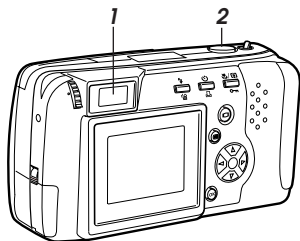
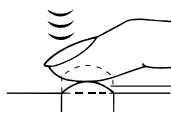
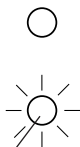
液晶モニタ

長所：撮影する範囲を正しく確認できます。

短所：カメラがぶれやすく、電池の消耗が早くなります。

静止画を撮りましょう

まず、ピントを合わせます

半押し

ファインダ

1 ファインダをのぞいて、構図を決めます。

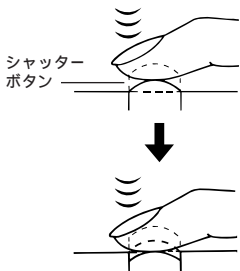
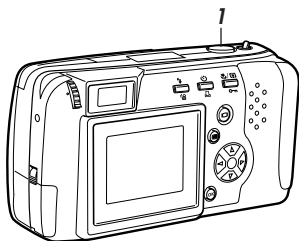
2 シャッターボタンを、ファインダの横の緑ランプが点灯するまで軽く押します（半押し）。

ピントと露出が自動的に決まり、固定されます。

緑ランプが点滅したときは、ピントが合っていません。いったん指を離し、再びシャッターボタンを軽く押してください。

☞ **そのまま、次ページの「次に、撮影します」へ進んでください。**

次に、撮影します

押し切り

1 半押しの状態から、さらにシャッターボタンを押し込みます（押し切り）。

シャッターボタンは静かに押してください。シャッターボタンを強く押すと、カメラが動いて画像がぶれることがあります。

撮影され、「ピピッ」と音が鳴ります。

ファインダ横の緑ランプが点滅し、しばらくすると消えます。

2 緑ランプが消えると、再び撮影できます。

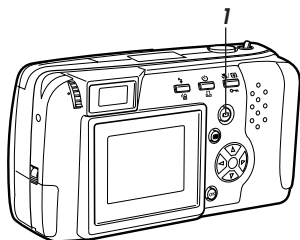
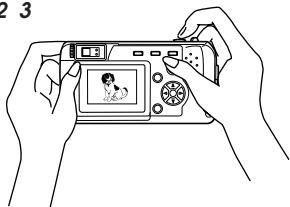
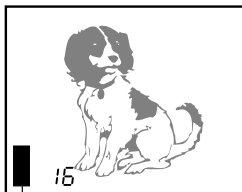
緑ランプが消える前に次の撮影を行おうとしても、「ピピッ」と音は鳴らず、撮影できません。数秒待って、緑ランプが消えたことを確認してから、撮影し直してください。
電源を切るときは、「電源を切ります」を参照してください（P.47）。

注意

- **緑ランプとカード書込中マーク（P.23）の点滅中には、絶対にカードカバーを開けたり、電池やカードを抜いたり、ACアダプタを抜いたりしないでください。いま撮影した画像が記録されないだけでなく、記録済みの画像が破壊されるおそれがあります。**

- 構図よりもやや広い範囲が撮影されます。
- カード書込中マークの点滅は、画像を処理していることを表しています。
- 「ビープ音」をオフにすると、「ピピッ」という音は鳴りません（P.103）。緑ランプの点滅で撮影を確認してください。

- カード書込中マークの点滅時間は画質モードにより異なりますが、約2～40秒以内に終わります。
- 次の撮影に入るまでの待ち時間や連写可能枚数は、画質モードにより異なります。

液晶モニタを使うときは

1 液晶モニタボタンを押します。

液晶モニタが点灯します。

2 液晶モニタを見ながら、構図を決めます。

3 ファインダを使った撮影と同じ手順で撮影します（P.40 - 41）。

カードに書き込んでいる間は、メモリゲージが表示されます。

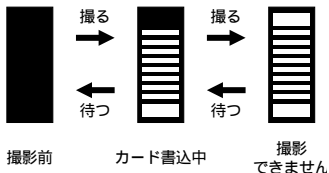
メモリゲージがいっぱいになると撮影できません。数秒待って、メモリゲージが縮んでから撮影してください。

電源を切るときは、「電源を切ります」を参照してください（P.47）。

液晶モニタ

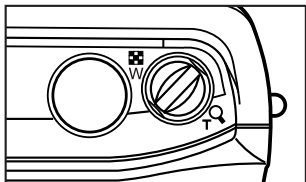
メモリゲージ

メモリゲージの表示

撮影前　**カード書込中**　**撮影できません**

- 液晶モニタを使って撮影すると､使わない時よりも書き込み時間が長くなります。
- 被写体に斜めの線があると、液晶モニタにギザギザが見えますが、故障ではありません。再生時には目立たなくなります。
- 晴天下のように明るい場所で撮影すると、わずかに縦スジ（スミア）が入る場合がありますが、故障ではありません。
- 構図よりやや広い範囲が撮影されます。

- 液晶モニタの画像は構図を確認するためのものです。大切な画像を撮影するときは、撮影後にテレビ画面やパソコンで画像のピントや露出を確認してください（P.55, P130）。

拡大して撮影しましょう

3 倍ズームで望遠（Tele）や広角（Wide）撮影ができます。望遠にすると被写体を大きく撮影でき、広角にすると広い範囲を撮影できます。

ズームレバーを W（Wide）側へ押すと広角になります。

ズームレバーを T（Tele）側へ引くと望遠になります。

• デジタルテレモードと組み合わせると、7.5 倍ズーム相当の撮影が可能です。(P.72)

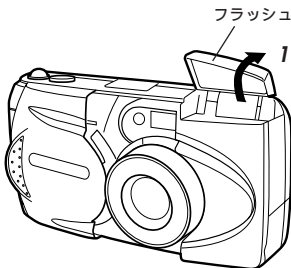
フラッシュを使って撮影するには

周囲が暗いと感じたときは、あらかじめフラッシュを開けておきましょう。

ファインダ

フラッシュが必要なとき

シャッターボタンを半押ししたときに、ファインダ横のオレンジランプが点滅することがあります。

フラッシュが必要ですので、フラッシュを開けてください。

1 フラッシュの端の突起に指をかけ、フラッシュを引き上げます。

シャッターボタンを半押ししたときにファインダ横のオレンジランプが点灯すれば、シャッターボタンを押し込んだときにフラッシュが発光します。

フラッシュで撮影できる範囲

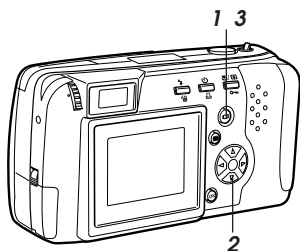
フラッシュで撮影できる距離は、ズームレバーを操作すると変化します。

W側へいっぱいに押す（広角）：約0.2～4.0 m

T側へいっぱいに引く（望遠）：約0.2～2.6 m

※約0.2～0.8mの範囲では、マクロ機能を使ってください（P.70）。

撮った静止画を確認しましょう

撮影したら、今度は内容を確認してみましょう。

1 撮影モード（レンズバリアの開いた状態）で、液晶モニタボタンをすばやく2回押します。

再生モードになり、しばらくすると撮影された最新の画像が液晶モニタに表示されます。

1枚も撮影されていない場合は、液晶モニタに「画像が記録されていません」と表示されます。

2 十字ボタンを押して、別の画像を確認します。

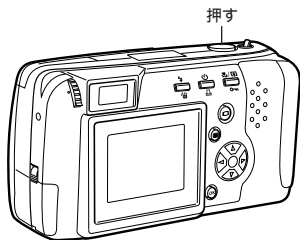
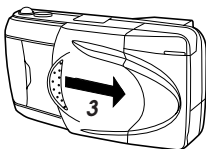
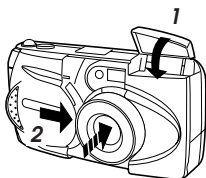
◁ ：1枚前の画像を表示
▷ ：次の画像を表示
△ ：10枚前の画像を表示
▽ ：10枚先の画像を表示

3 液晶モニタボタンを押します。

撮影モードに戻ります。

確認中に撮影するには

液晶モニタに表示して確認している最中でも、突然、シャッターチャンスが到来するかもしれません。

そんなときは、ファインダをのぞいてシャッターボタンを押してください（P.40 – 41）。すぐに撮影できます。

電源を切ります

1 **フラッシュが開いているときは、フラッシュを閉じます。**

2 **レンズバリアを、レンズに触れるまで軽く閉じます。**

レンズバリアは、レンズに強く押し当てないでください。
レンズがカメラに引き込まれます。

3 **レンズが完全に引き込まれたら、レンズバリアを完全に閉じます。**

コントロールパネルの表示が消え、電源が切れます。

- 電源を切ったり、電池を交換しても、撮影した画像は消えません。

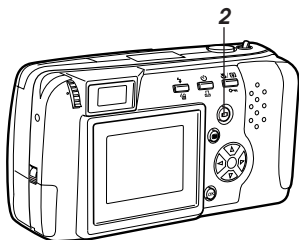
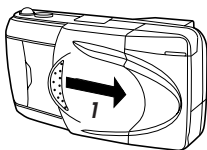
3

画像を再生しましょう

前章では、静止画を撮影し、その直後に画像を確認しました。ここでは、撮影済みの画像をまとめて確認したり、テレビにつないで鑑賞したりといった便利な再生機能を使ってみましょう。
前章で何回か撮影したあとで、まず次の「再生できるようにしましょう」をお読みください。その後は、使ってみたい機能のページからお読みください。

CAMEDIA

再生できるようにしましょう

再生モードで電源を入れる

1 レンズバリアが閉じていることを確認します。

2 液晶モニタボタンを押します。

再生モードで電源が入り、しばらくすると撮影された最新の画像が液晶モニタに表示されます。

1 枚も撮影されていない場合は、液晶モニタに「画像が記録されていません」と表示されます。

カードに問題があると、メッセージが表示されます（P.35）。

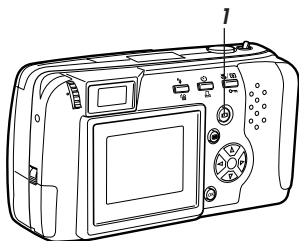
電池残量が残り少ない場合は、電池残量警告のマークが点滅します。

節電状態になったら

電池で使用している場合は 3 分間なにも操作しないと自動的に電源が切れますが、しばらく操作しないときは、できるだけ電源を切っておいてください。また、新品電池をお使いの場合は、電池の種類によっては電源が切れるまでの時間は長くなります。

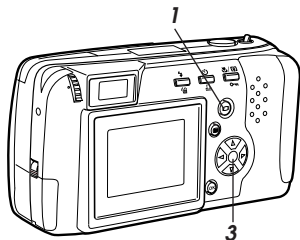
- **カメラの電源が入っているときは、絶対にカードカバーを開けたり、カードや電池を取り出したり、AC アダプタを抜いたりしないでください。カード内のデータが破壊されることがあります。**
- **液晶モニタを強く押さないでください。画面上ににじみが残り、画像が正しく再生されなくなったり、液晶モニタが割れたりするおそれがあります。**

- 電源を入れた後に液晶モニタが一瞬光り、0.5 〜 2 秒してから画像が表示されることがありますが、これは故障ではありません。

再生モードの電源を切る

1 液晶モニタボタンを押します。

液晶モニタの表示が消え、電源が切れます。

1枚ずつ再生しましょう

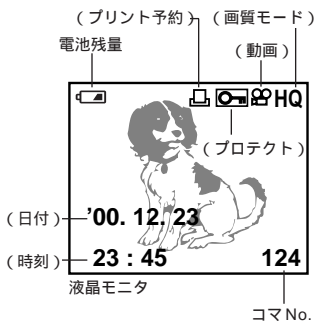
液晶モニタに、画像を1枚ずつ表示します。撮影時と同じ操作です（P.46）。

1 レンズバリアが閉じている状態で、液晶モニタボタンを押します。

再生モードで電源が入り、しばらくすると撮影された最新の画像が液晶モニタに表示されます。

2 画像を確認します。

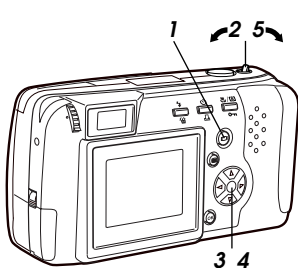
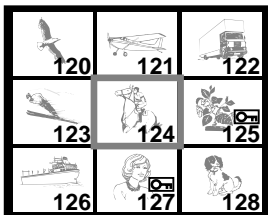
液晶モニタには画像の他に左図の情報が表示されます。

（ ）内の情報は、設定や画像の種類によって表示されます。

電池残量や画質モードなどの表示は、約3秒間で自動的に消えます。

3 十字ボタンを押して、別の画像を表示します。

◁ ：1枚前の画像を表示
▷ ：次の画像を表示
△ ：10枚前の画像を表示
▽ ：10枚先の画像を表示

まとめて再生しましょう

画像を一覧表示できます。画像を探す時に便利です。

液晶モニタ

1 レンズバリアが閉じている状態で、液晶モニタボタンを押します。

再生モードで電源が入り、しばらくすると撮影された最新の画像が液晶モニタに表示されます。

2 ズームレバーをW（■）側に押します。

表示していた画像を含む複数の画像が一覧表示されます。

一覧表示には、約2秒かかります。

1画面に表示する枚数は変更できます（P.119）。

3 十字ボタンを押して、別の画像を一覧表示します。

△：左上の画像の直前まで表示
▽：右下の画像の直後から表示

4 十字ボタンを押して、表示中の画像を選択します。

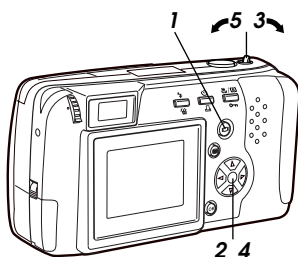
◁：左の画像を選択
▷：右の画像を選択

5 ズームレバーをT（Q）側に引きます。

選択されている画像が液晶モニタ一杯に表示され、1枚ずつ再生するようになります（P.52）。

再び一覧表示するには、手順2へ戻ります。

画像を拡大しましょう

画像を拡大して表示できます。
なお、動画（ 🎥 ）マークのついている画像（動画）は拡大表示できません。

液晶モニタ

1 レンズバリアが閉じている状態で、液晶モニタボタンを押します。

再生モードで電源が入り、しばらくすると撮影された最新の画像が液晶モニタに表示されます。

2 十字ボタンで拡大したい画像を選択します（P.52 – 53）。

3 ズームレバーを T（ 🔍 ）側に引きます。

画像の表示が、1.5 倍に拡大されます。

さらにズームレバーを T 側に引くたびに、2 倍、2.5 倍、3 倍に切り替わります。

4 十字ボタンを上下左右に押します。

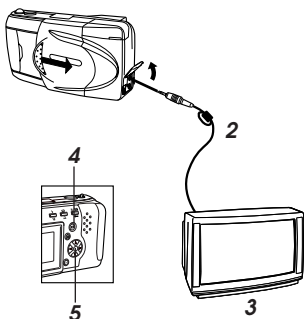
表示する範囲が上下左右に滑らかに移動します。

5 ズームレバーを W 側に押します。

画像の表示が、1 倍に戻ります。

別の画像を表示するには、1 倍表示に戻してください。

テレビ画面に表示しましょう

大きな画面で画像を確認するには、同梱のビデオケーブルでテレビに接続しましょう。

1 **テレビとカメラの電源が切れていて、カメラのレンズバリアが閉じていることを確認します。**

2 **ビデオケーブルを、カメラのビデオ出力端子とテレビの入力端子に差し込みます。**

3 **テレビの電源を入れて、「ビデオ入力」に設定します。**

設定方法については、テレビの取扱説明書をお読みください。

4 **カメラの液晶モニタボタンを押します。**

再生モードで電源が入り、撮影された最新の画像がテレビに表示されます。

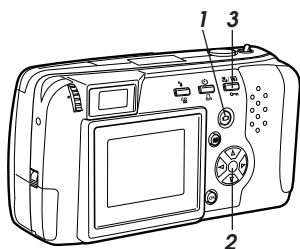
5 **十字ボタンで画像を選択します（P.52 – 53）。**

- テレビに接続すると、カメラの液晶モニタは消えます。
- テレビの調整により、画像が画面中央からずれることがありますが、故障ではありません。
- ご使用のテレビによっては、画像の外側に黒枠が表示されることがあります。このような状態でテレビからビデオプリンタ（市販）に出力すると黒枠が目立つことがあります。

- ACアダプタ（別売）の使用をお勧めします。

誤って消さないために

確実に残しておきたい画像は、プロテクト（消去禁止）を設定してください。プロテクトを設定した画像は、1コマ消去（P.57）や全コマ消去（P.116）をしても消去されなくなります。

電源を切っても、プロテクトの設定は変化しません。

1 レンズバリアが閉じている状態で、液晶モニタボタンを押します。

再生モードで電源が入り、しばらくすると撮影された最新の画像が液晶モニタに表示されます。

2 十字ボタンで残しておきたい画像を選択します。

1枚表示（P.52）でも、一覧表示（P.53）でも設定できます。

液晶モニタ

3 プロテクトボタンを押します。

選択した画像にプロテクト（消去禁止）が設定され、プロテクトマークが画像の右上に表示されます。

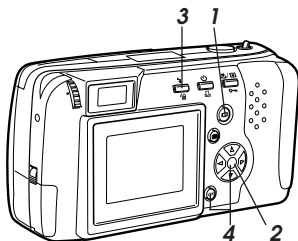
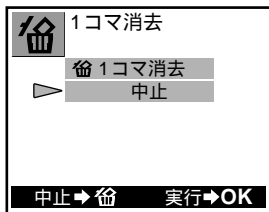
プロテクトを解除するには

手順3で再び、プロテクトボタンを押します。

注意 • **カードを初期化すると、プロテクトした画像も消去されます。**

• ライトプロテクトシールの貼ってあるカードには､プロテクトを設定できません。

1枚ずつ消去します

必要ない画像を消去すると、カードの撮影可能枚数が回復します。
消去したい画像にプロテクトが設定されている場合、およびカードにライトプロテクトシールが貼ってある場合は消去できません。消去するには、プロテクトを解除するかライトプロテクトシールをはがしてから操作してください。（はがしたライトプロテクトシールは再使用しないでください。）

液晶モニタ

1 **レンズバリアが閉じている状態で、液晶モニタボタンを押します。**

再生モードで電源が入り、しばらくすると撮影された最新の画像が液晶モニタに表示されます。

2 **十字ボタンで消去したい画像を選択します。**

1枚表示（P.52）でも、一覧表示（P.53）でも消去できます。

3 **消去ボタンを押します。**

確認画面が表示されます。

中止するには、再び消去ボタンを押します。

4 **十字ボタンを押して「1コマ消去」を選択し、OKボタンを押します。**

「ピッ」という音がして画像が消去されます。

すべての画像を消去するには

カードのすべての画像を一度に消去することもできます（P.116）。

- **消去中にカードカバーを開けたり、電池やACアダプタ、またはカードを抜くと、カード内のデータが破壊されるおそれがあります。**

- プリントのカード予約（P.124）が設定されているカードでは、消去時間が長くなる場合がありますが、故障ではありません。

4

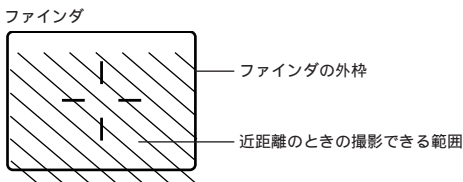
上手に撮影しましょう

ピント合わせやフラッシュの使い分けなど、便利な機能のいくつかはカメラのボタンを押すだけで設定できます。あらかじめ知っておくと撮影の役に立つでしょう。また、カメラを上手に使う上で知っておくと役に立つ知識もあります。
何回か撮影して 2 章の操作に慣れたら、お好みのページからお読みください。

CAMEDIA

覚えておきましょう

距離とファインダのズレ

ファインダの外枠は、実際に撮影できる範囲、つまり撮影した画像と一致しないことがあります。

遠くの景色を撮影するときは、ファインダの外枠と撮影できる範囲がほぼ一致します。しかし、被写体までの距離が近づくにつれて、撮影できる範囲は下にズレます。ズームレバーをT（Tele ：望遠）側へ引くと、ズレはさらに大きくなります。

近距離で撮影するときは、液晶モニタを使うと正しい範囲を撮影できます。しかし、液晶モニタを使用するとカメラがぶれやすくなり、また電池の消耗が早くなります。

ピントの合わせにくいもの

ほとんどの被写体では、カメラが自動的にピントを合わせる（オートフォーカス）のでピント合わせを気にする必要はありません。

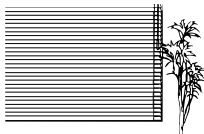
しかし、次のページの1～3のような条件ではピントが合わない場合があり、そのときはファインダ横の緑ランプが点滅して知らせます。また、4、5のような被写体では、ピントが合ったことを示す緑ランプが点灯しても、実際にはピントが合っていない場合があります。

1 コントラストのない被写体

2 画面中央に極端に明るいものがある被写体

3 縦線のない被写体

4 遠いものと近いものが混在する被写体

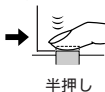
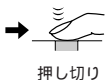
5 動きの速い被写体

これらの場合は、被写体と同距離にあるものであらかじめピントを合わせる（フォーカスロック：P.62）か、2.5ｍまたは無限遠にピントを固定して（ワンタッチフォーカス：P.63）撮影してください。

3のような被写体では、カメラを縦位置に構えてフォーカスロックした後、横位置に戻して撮影することもできます。

ピントが合わないときは

あらかじめピントを合わせる

フォーカスロック

ピントを合わせたいものがオートフォーカスマークから外れる（中央にない）ときは、以下の操作でピントを合わせます。これをフォーカスロックといいます。

1 **レンズバリアを開けます。**

撮影モードで電源が入ります。

2 **ファインダーをのぞき、撮影したいものにオートフォーカスマークを合わせます。**

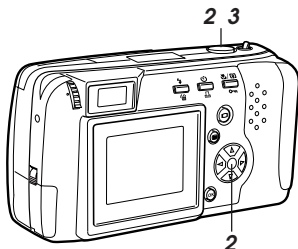
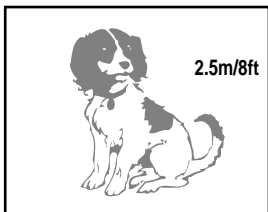
3 **シャッターボタンを、ファインダ横の緑ランプが点灯するまで半押しします。**

ピントが合い、同時に露出も固定されます。

4 **シャッターボタンを半押ししたまま撮影したい構図に変え、シャッターボタンを押し切ります。**

ピントを固定する

ワンタッチフォーカス

ピントを近距離（2.5m）または遠距離（∞）のどちらかにワンタッチで固定できます。これをワンタッチフォーカスといいます。ピントの合いにくいときに利用してください。

液晶モニタ

1 レンズバリアを開けます。

撮影モードで電源が入ります。

2 被写体までの距離を考え、下記の十字ボタンを押しながらシャッターボタンを半押しします。

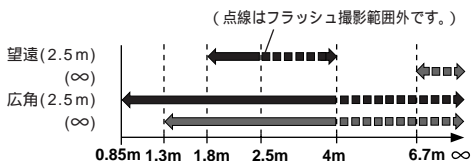
シャッターボタンを半押しするまで、十字ボタンは必ず押したままにします。

近距離（2.5m）に固定する
→ ▽ ボタン
遠距離（∞）に固定する
→ △ ボタン

液晶モニタが点灯しているときは、液晶モニタにマークが表示されます。

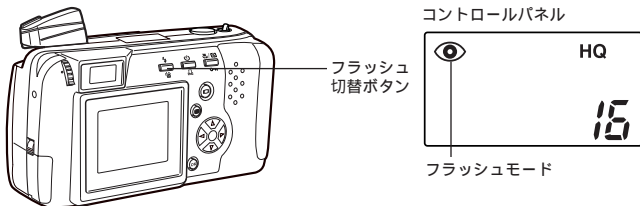
3 そのままシャッターボタンを押し切ります。

1枚撮影すると、ワンタッチフォーカスは自動的に解除されます。

ワンタッチフォーカスでピントの合う範囲の目安
（点線はフラッシュ撮影範囲外です。）
望遠(2.5m)
(∞)
広角(2.5m)
(∞)
0.85m 1.3m 1.8m 2.5m 4m 6.7m ∞

フラッシュを使い分けましょう

フラッシュモードの切り替えかた

フラッシュを使うときは、フラッシュを開け（P.45）、撮影状況と目的に合わせてフラッシュモードをお選びください。
ただし、動画を撮影するときは、フラッシュは発光しません（P.92）。
また、ズームレバーを操作すると、フラッシュを使える距離の範囲は変化します（P.45）。

電源を入れたときは「オート発光」に設定されています。ほかのフラッシュモードに変更すると、フラッシュモードのマークがコントロールパネルに表示されます。

フラッシュモード切替ボタンを押すたびに、表の順にフラッシュモードが切り替わります。

設定モード	機能・目的
オート発光（表示なし）	暗い時や逆光の時、自動的に発光します(P.66)。
赤目軽減発光	目が赤く写ってしまう現象を軽減します(P.67)。
強制発光	必ず発光させたいときに使います（P.67）。
スローシンクロ SLOW	夜間撮影に便利です（P.68）。
赤目軽減＋スローシンクロ SLOW	夜間の人物撮影に適しています（P.68）。

電源を切ると「オート発光」に戻ります

「赤目軽減発光」に設定すると、電源を切っても設定は保持されます。そのほかの設定にすると、電源を切ると「オート発光」に戻ります。

電源を切っても元に戻らないようにするには、撮影メニューの「設定」で「ホールド」に設定してください（P.104）。

- ファインダ横のオレンジランプが点滅しているときは、フラッシュは充電中です。撮影できません。いったんシャッターボタンから指をはなし、オレンジランプが消灯してから撮影してください。
- マクロ撮影（P.70）では、画像の一部が欠けたり光量ムラが発生することがありますので、ご注意ください。撮影後に、必ず液晶モニタで再生して確認してください。
- 連写モード（P.90）およびパノラマモード（P.95）ではご使用になれません。

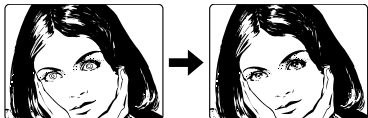
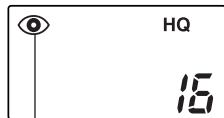
オート発光

暗いときや逆光のとき、フラッシュが自動的に発光します。

ファインダ

逆光の被写体を撮影するときは、被写体を逆光自動補正マークに合わせて撮影してください。

赤目軽減発光

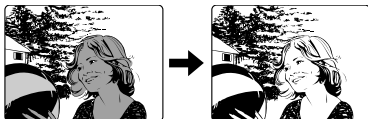
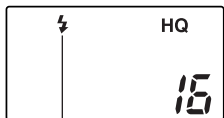
人物を撮影すると目が赤く写ることがあります。赤目軽減発光にして撮影すると、この現象が起こりにくくなります。

コントロールパネル

赤目軽減発光マーク

本発光の前に10数回予備発光を行い、目が赤く写ってしまう現象を起こりにくくします。予備発光のため、シャッターが切れるまで約1秒かかります。カメラをしっかり構えて手ぶれを防いでください。

次のときに赤目軽減の効果が現れにくくなります

- 被写体が、フラッシュを正面から見ていないとき
- 被写体が、予備発光を見ていないとき
- 被写体までの距離が遠い場合
- 被写体の個人差

強制発光

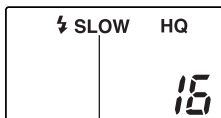
必ず発光させたいときに使います。

コントロールパネル

強制発光マーク

強制発光モードでは、フラッシュは常に発光します。木かげなどで顔にかかった陰をやわらげるときや、逆光、蛍光灯などの人工照明下での撮影に使います。

非常に明るい状況下では、効果があらわれにくくなることがあります。

スローシンクロ

SLOW

夜景を撮影するときに便利です。

コントロールパネル

スローシンクロマーク

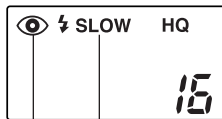
撮影のはじめにフラッシュを発光させ、シャッター速度を最長 1/2 秒まで遅くして周囲の状況を捉える撮影方法です。背景がぶれるのを防ぐため、三脚のご使用をお勧めします。動く被写体はぶれて写ります。

フラッシュが必要な時に自動的に発光します。

赤目軽減＋スローシンクロ

SLOW

夜景をバックに人物を撮影するときに適しています。

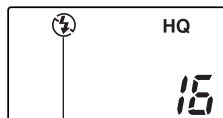
コントロールパネル

赤目軽減発光マーク

赤目軽減発光とスローシンクロの両方を行います。それぞれのページを参照してください。

シャッター速度が遅くなります。手ぶれを防ぐため、三脚のご使用をお勧めします。動く被写体はぶれて写ります。

フラッシュを閉じる

暗いところでも発光させたくないときは、フラッシュを閉じてください。

コントロールパネル

フラッシュ発光禁止マーク

フラッシュを使えない美術館での撮影や、夕景や夜景の撮影に使います。

暗い場所では、シャッター速度が遅くなります。手ぶれを防ぐため、三脚のご使用をお勧めします。動く被写体はぶれて写ります。

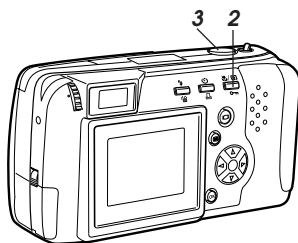
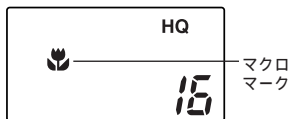
近くのものを撮影しましょう

近くのものを撮影するときは、マクロ機能を使います。被写体に近づいて大きく撮影できます。

被写体までの距離を約20cm〜約80cmの範囲に保ってください。範囲外でも撮影できますが、ピントと露出が合わずに正しく撮れないことがあります。

被写体までの最短距離（約20cm）の目安

望遠のとき：ズームレバーをT(Tele)側に引く
約8cm×約6cmの被写体が、液晶モニタの画面いっぱいに表示されます。

広角のとき：ズームレバーをW(Wide)側へ押す
約22cm×約17cmの被写体が、液晶モニタの画面いっぱいに表示されます。

液晶モニタ

コントロールパネル

1 レンズバリアを開けます。

撮影モードで電源が入ります。

2 マクロ・デジタルテレボタンを押します。

液晶モニタが点灯し、マクロマークが表示されます。

コントロールパネルにマクロマークが表示されます。

3 撮影します。

マクロを解除するには

電源を切ると、マクロは解除されます。または、いったんデジタルテレ機能に切り替えてから解除できます（P.72）。

• フラッシュを使用すると影が目立つ場合があります。

• マクロを使うときは、ファインダの外枠が撮影できる範囲から大きくズレます。ファインダの代わりに液晶モニタを使用することをお勧めします（P.60）。

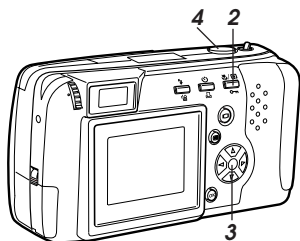
もっと拡大して撮影しましょう

1.6 倍、2 倍、2.5 倍の望遠で撮影ができます（デジタルテレ）。光学ズーム（P.44）と組み合わせると、それぞれ最大 4.8 倍、6 倍、7.5 倍相当の望遠で撮影できます。

デジタルテレで撮影すると、画質が粗くなることがあります。

液晶モニタ

デジタルテレマーク

倍率

1 **レンズバリアを開けます。**

撮影モードで電源が入ります。

2 **マクロ・デジタルテレボタンを 2 度押します。**

液晶モニタが点灯し、デジタルテレマークが表示されます。

3 **十字ボタンの △ ▽ を押し、倍率を選択します。**

1.0 倍（最初の設定）　△ ボタン
1.6 倍
2.0 倍
2.5 倍　▽ ボタン

4 **撮影します。**

手ぶれを防ぐために、三脚の使用をお勧めします。

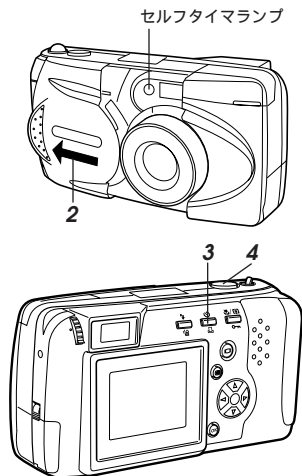
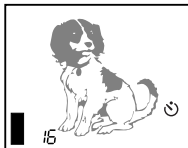
デジタルテレを解除するには

液晶モニタスイッチを押して液晶モニタを消すか、マクロ・デジタルテレボタンを再び押してください。

デジタルテレが解除されて 1 倍に戻ります。光学ズームは変化しません。

- 画質モードが SHQ-TIFF に設定されている場合は使用できません。画像モードを SHQ-TIFF 以外に変更して撮影してください（P.84）。

セルフタイマで撮影しましょう

セルフタイマを使って撮影ができます。記念写真などを撮影する時に便利です。
カメラを三脚などにしっかりと固定してから撮影してください。

液晶モニタ

コントロールパネル

セルフタイママーク

1 **カメラを三脚などにしっかりと固定します。**

2 **レンズバリアを開けます。**

撮影モードで電源が入ります。

3 **セルフタイマボタンを押します。**

コントロールパネルにセルフタイママークが表示されます。

液晶モニタが点灯しているときは、液晶モニタにもセルフタイママークが表示されます。

4 **撮影します。**

カメラの前面のセルフタイマランプが 10 秒間点灯し、2 秒間点滅したあとに撮影されます。

1 枚撮影すると、セルフタイマは自動的に解除されます。

セルフタイマを中止するには

手順 3 のあとでセルフタイマを中止するには、セルフタイマボタンを再び押してください。

セルフタイマランプの点灯中でもセルフタイマは中止できます。

5

撮影の上級テクニック

このカメラでは、静止画撮影に加えて動画も撮影できます。そのほかにも撮影のときに役立つさまざまな機能があり、すべてが撮影メニューにまとまっています。次のページで使いたい機能を見つけたら、まず「撮影メニューの使いかた」（P.78）を読んで撮影メニューの操作を覚えてください。続いて、それぞれの機能のページに進んでください。

CAMEDIA

撮影メニューの役割

画像の写り具合を調節したり、画質モードを変更して撮影可能枚数を増やしたりするには、撮影メニューの設定値を変更します。動画を撮影するときも、撮影メニューを表示します。

☞ メニューの操作方法については、「撮影メニューの使いかた」（P.78）を参照してください。

選択項目		目的	ページ
露出補正		画像の明るさを、補正できます。	P.80
測光		全体の明るさではなく、中央部の明るさを優先して撮影できます。	P.82
画質		画像の大きさと画質モードを変更し、撮影可能枚数を増減できます。	P.84
ホワイトバランス		色合いの自動調節をやめ、晴天/曇天/電球/蛍光灯用の設定に変更できます。	P.86
ISO 感度		高感度に設定すると、より暗い所で、速いシャッタースピードで撮影できます。	P.88
ドライブ		静止画を最大45枚まで連続して撮影できます。	P.90
ファンクション撮影	ムービー撮影	15フレーム/秒の動画を撮影できます。	P.92
	カード機能	パノラマ写真を撮れます。機能付カード（別売）も利用できます。	P.95
シャープネス		被写体の輪郭を柔らかに見えるように撮影できます。	P.98
ファイル名メモリー		画像ファイルのファイル名の付けかたを選択できます。	P.100
ビープ音		警告音を鳴らすか鳴らさないか選択できます。	P.103
設定		電源を切っても設定値を保持するようにできます（この表に△印のある選択項目のみ）。	P.104

電源を切ったあとの設定値

選択項目には、電源を切ったあとも設定値を保持しているものと、出荷時の設定値に戻るものと、設定値を変更できないものがあります。

下の表は、変更できる選択項目と、その設定値です。出荷時の設定値は（ ）で表されています。

選択項目	設定値	記憶
露出補正	+2.0 +1.5 +1.0 +0.5 **(0)** -0.5 -1.0 -1.5 -2.0	△
測光	**（ESP）** スポット	△
画質	SHQ-TIFF SHQ **（HQ）** SQ-高画質 SQ	○
ホワイトバランス	**（オート）**	○
ISO 感度	**（オート）** 100 200 400	△
ドライブ	**（シングル）** ドライブ	－
シャープネス	**（標準）** ソフト	△
ファイル名メモリー	オート **（リセット）**	○
ビープ音	**（オン）** オフ	○
設定	**（クリア）** ホールド	○

表中の「記憶」欄の記号は、選択項目ごとの下記の特徴を表しています。

○ 再び変更するまで、設定値を保持しています。

△ 電源を切ると出荷時の設定値に戻りますが、撮影メニューの「設定」で「ホールド」にすると設定値を保持するようになります（P.104）。
ただし、電池を抜くと出荷時の設定値に戻ります。

－ 電源を切ると、常に出荷時の設定値に戻ります。

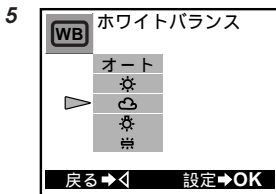
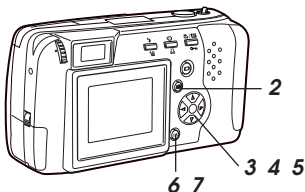
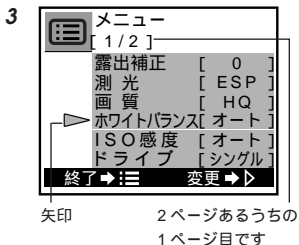
- **電池を抜いて放置したり、電池が切れているとすべての設定値が出荷時の状態に戻ります。**

撮影メニューの使いかた

文中の【選択項目】と【設定値】は、目的によって選ぶ項目や値が異なる部分です。これらについては、それぞれのページを参照してください。

3

5

ホワイトバランス
WB
オート
戻る
設定➔OK

1 **レンズバリアを開けます。**

撮影モードで電源が入ります。

2 **メニューボタンを押します。**

液晶モニタに撮影メニューが表示されます。

このときに、現在の設定値を確認できます。設定値は項目名の右隣に［ ］で表示されます。

3 **十字ボタンの △ ▽ を押して画面の矢印を動かし、【選択項目】に合わせます。**

（左図の例では、【選択項目】は「ホワイトバランス」です。）

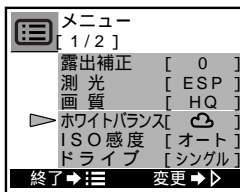
選択した選択項目が緑色になります。

4 **十字ボタンの ▷ を押します。**

その項目の設定内容が表示されます。

5 **十字ボタンの △ ▽ を押し、【設定値】に合わせます。**

（左図の例では、【設定値】は ☁ です。）

選択した設定値が緑色になります。

6 **OKボタンを押します。**

設定が変更され、メニューの最初の画面が表示されます。

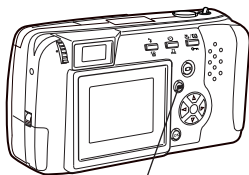
7
7 設定を変更したことを確認し、もう一度OKボタンを押します。

設定が記憶され、メニューが消えます。

変更をキャンセルするには

手順6で、OKボタンの代わりにメニューボタンを押します。

一時的に設定を変更して撮影するには

撮影中に一時的に設定を変更するには、次の手順で操作します。

メニューボタン

1 手順1～5を行います。

2 メニューを表示したまま撮影します。

その時に選択している設定値で撮影されます。

3 メニューボタンを押します。

元の設定に戻り、撮影メニューが消えます。

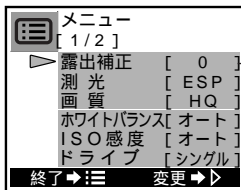
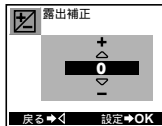
電源を切ると元に戻るものがあります

選択項目によって、電源を切ると設定値が元に戻るものと、そのまま保持されるものがあります（P.77）。

画像の明るさを補正する

露出は撮影時に自動的にセットされますが、＋/－ 2 段で約 0.5 段刻みに補正できます。
白の多い被写体には＋の、黒の多い被写体には－の補正を入れると効果的です。

☞ **操作方法は、「撮影メニューの使いかた」（P.78）をお読みください。**

撮影メニューの選択項目

設定値について

＋ 2.0 ：被写体の周囲が明るいとき

＋ 1.5

＋ 1.0

＋ 0.5

± 0 ：（電源を入れたときの値）

－ 0.5

－ 1.0

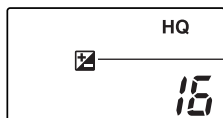
－ 1.5

－ 2.0 ：被写体の周囲が暗いとき

+2.0

±0

−2.0

コントロールパネルの表示

電源を切ると設定値は元に戻ります

電源を切ると、「± 0」に戻ります。

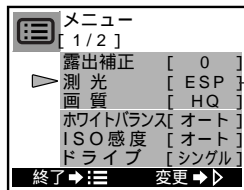
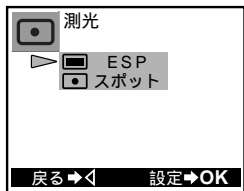
電源を切ったあとも設定値を保持させておくには、撮影メニューの「設定」で「ホールド」にします（P.104）。

- 露出補正をすると、液晶モニタに表示される画像の明るさも変わります。うす暗い被写体では変化が判りにくくなりますので、その時は撮影した画像を再生してご確認ください。
- フラッシュを使用すると、狙いどおりに補正できないことがあります。
- 被写体の周囲が極端に明るいときや、極端に暗いときは、露出補正では補正しきれません。

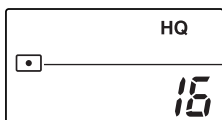
中央部の明るさを優先する

逆光のときは、通常の測光の設定値（デジタルESP測光）では被写体が暗くなります。このようなときは、スポット測光に変更してください。背景の光に影響されることなく、ファインダ中央部の明るさに合わせて撮影できます。

☞ **操作方法は、「撮影メニューの使いかた」（P.78）をお読みください。**

撮影メニューの選択項目

設定値について

ESP（デジタルESP測光）：電源を入れたときの値
構図の中央部と周辺部を別々に測光して、最適な露出にします。

スポット（スポット測光）
構図の中央部のみを測光します。逆光などで被写体が暗くなるとき、背景の光などに影響されることなく被写体に適正な露出を得られます。

コントロールパネルの表示

スポット測光での撮影方法

ファインダ

1 **ファインダをのぞき、撮影したいものにオートフォーカスマークを合わせます。**

2 **シャッターボタンを、ファインダ横の緑ランプが点灯するまで半押しします。**

ピントが合い、同時に露出も固定されます。

3 **シャッターボタンを半押ししたまま撮影したい構図に変え、シャッターボタンを押し切ります。**

電源を切ると設定値は元に戻ります

電源を切ると、「ESP」に戻ります。

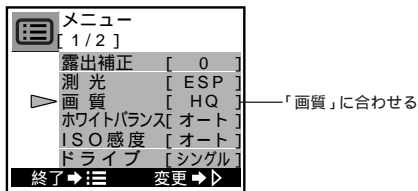
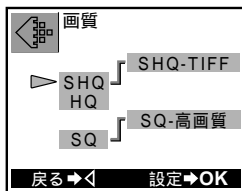
電源を切ったあとも設定値を保持させておくには、撮影メニューの「設定」で「ホールド」にします（P.104）。

画質優先か枚数優先か

このカメラでは、5 種類の画質モードがあります。高画質のモードを選択すると、特に綺麗に撮影できます。画質を抑えると、カードにたくさんの画像を保存できます（P.37）。撮影の目的によって使い分けましょう。

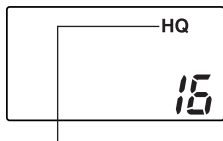
画質モードの設定値は、電源を切ったあとも保持されます。

☞ **操作方法は、「撮影メニューの使いかた」（P.78）をお読みください。**

撮影メニューの選択項目

設定値について

「SHQ-TIFF」または「SQ-高画質」に設定するには、それぞれ「SHQ」または「SQ」に合わせてから、十字ボタンの △ ボタンを 2 秒以上押し続けます。

画質	設定値	圧縮率
高	SHQ-TIFF	なし
↑	SHQ	低い
	HQ	高い
↓	SQ-高画質	低い
低	SQ	高い

※出荷時には、「HQ」に設定されています。

コントロールパネルの表示

画質モードが表示される

※「SHQ-TIFF」のときは、「SHQ」が点滅します。
「SQ-高画質」のときは、「SQ」が点滅します。

画質モードと画像の大きさ

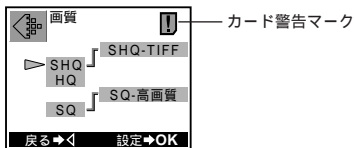
高画質のモードでは、画像は大きくなり、パソコンで大きく表示されます。

画質モード	大きさ（記録画素数）
HQ/ SHQ/ SHQ-TIFF	1600×1200 ピクセル
SQ/SQ-高画質	640×480 ピクセル

高画質にする際の諸注意

高画質になるほど、撮影直後の待ち時間（緑ランプの点滅時間）と再生時の表示までの時間が長くなり、撮影可能枚数は少なくなります。特に、「SHQ-TIFF」では極端に時間がかかり、撮影枚数は少なくなります。

高画質になるほど、画像をカードへ記録する時間（カード書込中マークの点滅時間）が長くなります。カード書込中マークの点滅中にカードカバーを開けたり、AC アダプタ、電池、カードを抜くと、カード内のデータが破壊される恐れがあります。

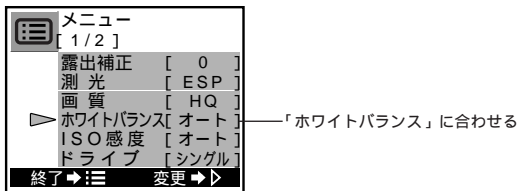
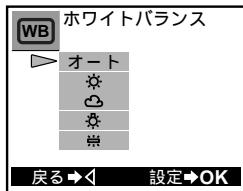
また、カードの撮影可能枚数が少ないときに高画質に変更すると、画面右上にカード警告マークが表示されることがあります。このときはカードの空き容量がたりません。別の画質モードを選択してください。

色合いを調節する

このカメラは、被写体を自然な色合いで撮影するオートホワイトバランスを採用しています。

ただし、天候や照明によっては思い通りの仕上がりになりにくいことがあります。そのようなときは、ホワイトバランスの設定値を変更してください。

☞ **操作方法は、「撮影メニューの使いかた」（P.78）をお読みください。**

撮影メニューの選択項目

「ホワイトバランス」に合わせる

設定値について

オート	電源を入れたときの値（通常はオートに設定してお使いください）
☀	晴天の屋外で撮影
☁	曇天の屋外で撮影
💡	電球の灯りで撮影
蛍光灯マーク	蛍光灯の灯りで撮影

※ 特殊な光源下では対応できない場合があります。

※ 選んだ設定値が最適かどうか、撮影後に必ず液晶モニタで画像を再生して色を確認してください。

コントロールパネルの表示

「オート」から変更すると、
ホワイトバランスマークが表示される

電源を切ると設定値は元に戻ります

電源を切ると、「オート」に戻ります。

電源を切ったあとも設定値を保持させておくには、撮影メニューの「設定」で「ホールド」にします（P.104）。

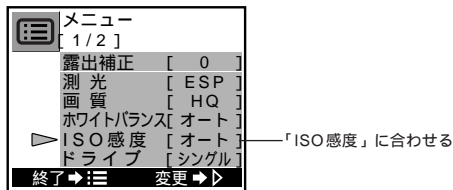
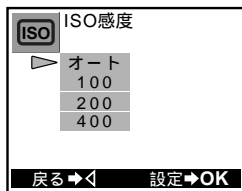
ISO感度を固定する

このカメラには、被写体の明るさに応じてISO感度を自動的に調節する機能があります。

ただし、撮影の目的によっては、自動的に調節しないほうが良い場合もあります。そのようなときは、ISO感度の設定値を変更してください。

☞ **操作方法は、「撮影メニューの使いかた」（P.78）をお読みください。**

撮影メニューの選択項目

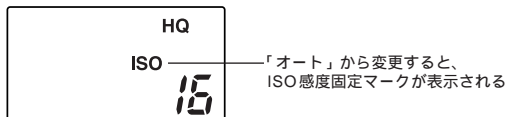
「ISO感度」に合わせる

設定値について

オート	**自動調節**（電源を入れたときの値）
100	**低感度** 綺麗な画像を得られますが、動きの速いものはぶれて写り、手ぶれを起こすこともあります。
200	**中間の感度** 100と400の中間にしたいときに選択します。
400	**高感度** 動きの速い被写体または低照度下での撮影に向きます。

※ ISO感度の数値は、フィルム式カメラ（銀塩写真）と比較したおおよその数値です。

※ ISO感度を上げる（設定値で大きな数値を選択する）と、画質は低下します。

※ 選んだ設定値が最適かどうか、撮影後に必ず液晶モニタで画像を再生して確認してください。

※ ISO感度を低く設定するときは、三脚とセルフタイマを併用すると手ぶれを避けられます（P.74）。

コントロールパネルの表示

電源を切ると設定値は元に戻ります

電源を切ると、「オート」に戻ります。

電源を切ったあとも設定値を保持させておくには、撮影メニューの「設定」で「ホールド」にします（P.104）。

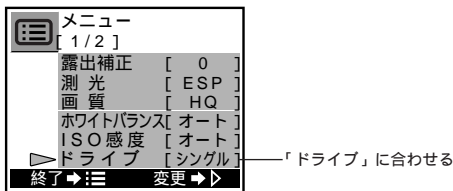
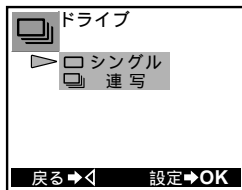
連続して撮影する

連写に設定すると、シャッターボタンを押している間、静止画を最大45枚まで連続して撮影できます。

連続した静止画のなかから、好みの静止画を見つけられます。動きの速い被写体の撮影に向いています。

☞ **操作方法は、「撮影メニューの使いかた」（P.78）をお読みください。**

撮影メニューの選択項目

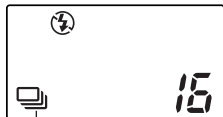
「ドライブ」に合わせる

設定値について

シングル	1枚ずつ撮影 （電源を入れたときの値）
連写	最大45枚まで連続撮影

※ 連写可能な枚数は、画質モードやカードの撮影可能枚数によって変わります。

※ フラッシュは発光しません。

※ 手ぶれを抑えるため、シャッター速度は最長1/30秒に制限されます。暗い被写体は通常より暗く写る場合があります。

※ 撮影後、画像の記録（カード書込中マーク点滅）にしばらく時間がかかります。

コントロールパネルの表示

「連写」に変更すると、連写マークが表示される

電源を切ると設定値は元に戻ります

電源を切ると、「シングル」に戻ります。

連写の画質モード

「連写」に設定すると、画質モードが変更されることがあります。

画質モードがSHQ-TIFFとSHQの場合、「連写」に設定している間は画質モードが自動的にHQになります。「シングル」に戻すと、元の画質モードに戻ります。

ただし、「連写」に設定しているときに画質モードを手動で変更すると、「シングル」に戻しても画質モードはそのままになります。

注意

- **カード書込中マークの点滅中にカードカバーを開けたり、ACアダプタ、電池、カードを抜くと、カード内のデータが破壊される恐れがあります。**

動画を撮影する

このカメラでは、静止画に加えて動画（15フレーム／秒）も撮影できます。
動きを記録したい被写体は、動画で撮影しましょう。

☞ **操作方法は、「撮影メニューの使いかた」（P.78）をお読みください。**

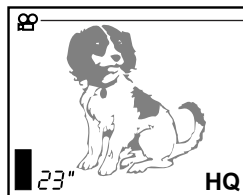
撮影メニューの選択項目

「ムービー撮影」は「ファンクション撮影」の設定値です。

設定値について

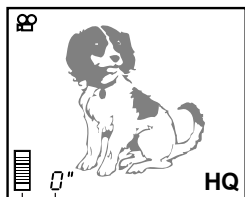
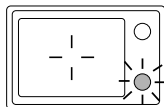
ムービー撮影
動画を撮影できます

カード機能
（別の機能です。詳しくはP.95）

液晶モニタの表示

※液晶モニタを消すと静止画の撮影に戻り、動画を撮影できません。液晶モニタボタンは押さないでください。

液晶モニタ
（動画の撮影が自動的に停止した状態）

ファインダ

動画の撮影方法

1 ファインダまたは液晶モニタを見ながら、構図を決めます。

2 シャッターボタンを押し切ります。

液晶モニタのメモリゲージの一番下が点灯し、撮影可能秒数が減少しはじめます。

メモリゲージ
→連続撮影秒数（次ページの表を参照）が過ぎると一番上まで点灯し、撮影は自動的に停止します。

撮影可能秒数
→カードの残り容量です。0 秒になると、撮影は自動的に停止します。

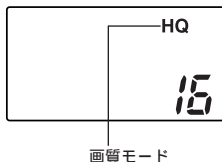
3 再び、シャッターボタンを押し切ります。

動画の撮影が停止し、ファインダ横の緑ランプが点滅します。

4 緑ランプが消えたら、再び手順 2 〜 3 の操作で撮影できます。

5 メニューボタンを押します。

撮影メニューに戻ります。

撮影した動画は、液晶モニタに再生して確認できます（P.110）。

画質モード

動画の画質モード

動画では、画像の大きさが違う 2 種類の画質モードがあります。

動画の画質モードは、静止画の画質モードによって決まります。変更するときは、いったん「ムービー撮影」を解除し、静止画の画質モードを変更してください（P.84）。

静止画の設定値	画質モード	大きさ（記録画素数）	連続撮影秒数
SHQ-TIFF	HQ	320 × 240 ピクセル	約15秒
SHQ			
HQ			
SQ-高画質	SQ	160 × 120 ピクセル	約60秒
SQ			

動画撮影のヒント

撮りたい場面を正確に撮影しようとすると、シャッターボタンを押すタイミングによっては、場面の最初や最後が少し欠けてしまうことがあります。

動画を撮影するときは、撮りたい場面よりも前後に少し余裕を持って撮影すると失敗しません。前後の余分は、あとで削除できます（P.114）。

ただし、カードの残り撮影可能秒数と、画質モードによる連続撮影秒数の制限の範囲内に撮影時間が納まるようにしてください。

電源を切ると設定値は元に戻ります

電源を切ると、静止画の撮影に戻ります。

- 静止画に比べて、画質が粗くなる場合があります。
- 構図よりもやや狭い範囲が撮影されます。
- 液晶モニタの画面上下に光が帯状に見えることがありますが、故障ではありません。
- 撮影中もズーム操作は可能ですが、ズーミングする速さは遅くなります。
- カード書込中マークの点滅中にカードカバーを開けたり、AC アダプタ、電池、カードを抜くと、カード内のデータが破壊される恐れがあります。

パノラマ写真を作る

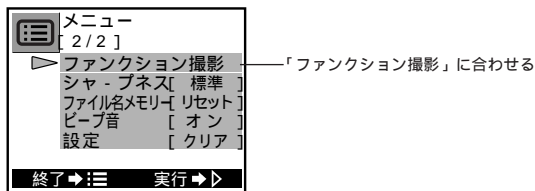
オリンパスの標準スマートメディア（カード）にはパノラマ合成撮影の機能がついており、パノラマ撮影を簡単に楽しめます。

被写体の端が重なるようにして撮影した何枚かの画像をCAMEDIA Master 2.0（別売）でつなぎ合わせ、1枚のパノラマ合成画像を作成します。パノラマ合成撮影の機能は、他社製カードや特定の機能付きカード（M-4T、M-4C、M-4N=別売）では使用できません。

☞ **操作方法は、「撮影メニューの使いかた」（P.78）をお読みください。**

撮影メニューの選択項目

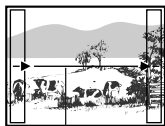
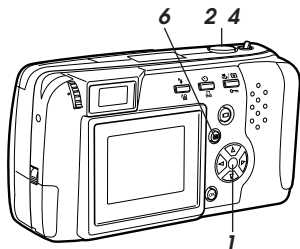
「カード機能」は「ファンクション撮影」の設定値です。

「ファンクション撮影」に合わせる

設定値について

ムービー撮影
（別の機能です。詳しくはP.92）

カード機能
カードの機能（パノラマ合成）を利用できます

パノラマ写真の撮影方法

液晶モニタ（パノラマ設定画面）

つなげる方向を示す矢印

1 十字ボタンで、つなげる方向を指定します。

▷ ：次の画像を右につなげます。
◁ ：次の画像を左につなげます。
△ ：次の画像を上につなげます。
▽ ：次の画像を下につなげます。

液晶モニタの矢印が、ボタンの方向に変わります。

2 撮影します。

このときの構図を覚えておいてください。

3 撮影したときに右端（右につなげる場合）の枠の中にあった被写体を、左側の枠の中に納めるように、カメラの向きを少し変えます。

右ページの図を参照してください。

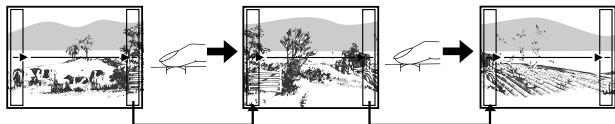
4 撮影します。

5 必要なだけ、手順 3 ～ 4 を繰り返します。

6 メニューボタンを押します。

通常の撮影に戻ります。

7 CAMEDIA Master 2.0（別売）を使って、画像をつなぎ合わせます。

カメラのみでは、パノラマ合成はできません。

前に撮影した画像の右端（右につなげる場合）に重なるように撮影してください。

電源を切ると設定値は元に戻ります

カードの機能を使用中に電源を切っても、次に電源を入れたときは通常の撮影に戻っています。

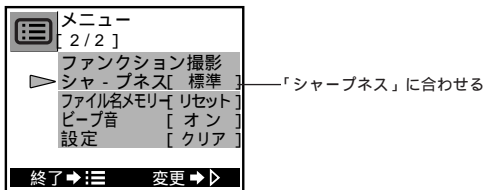
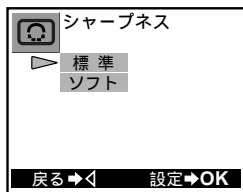
- ピント・露出・ホワイトバランスとも1枚目で決定されます。1枚目に太陽などを入れて撮影しないでください。
- 左ページの手順3では、カメラの向きを注意して調節してください。前の画像の被写体が枠の中に納められていないと、パノラマ合成画像を作成できません。
- パノラマモードでは、フラッシュはご使用になれません。
- HQ/SHQモードで多量のパノラマ撮影を行うと、合成するときにパソコンがメモリ不足になることがあります。SQモードでの撮影をお勧めします。
- 画質モードをSHQ-TIFFにしてパノラマ撮影をしても、SHQで記録されます。

ソフトな画像を撮影する

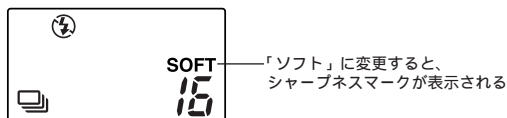
普通に撮影すると、被写体の輪郭はくっきりとシャープに撮影されます。通常の鑑賞に適しています。

画像をパソコンで加工する場合には、画像の輪郭をくっきりとさせたくないときがあります。そのようなときは、シャープネスの設定値を「ソフト」に変更します。

☞ **操作方法は、「撮影メニューの使いかた」（P.78）をお読みください。**

撮影メニューの選択項目

設定値について

標準
プリントや鑑賞に適しています（電源を入れたときの値）

ソフト
パソコンでの加工に適しています

コントロールパネルの表示

電源を切ると設定値は元に戻ります

電源を切ると、「標準」に戻ります。

電源を切ったあとも設定値を保持させておくには、撮影メニューの「設定」で「ホールド」にします（P.104）。

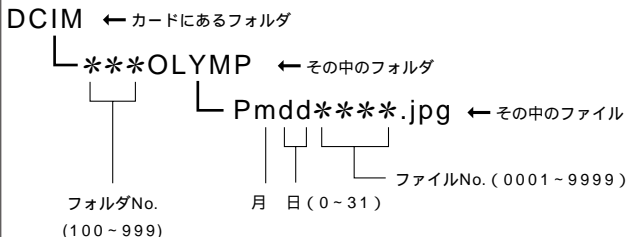
ファイル名のつけ方を変更する

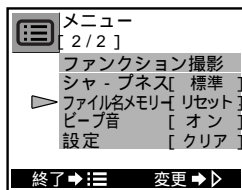
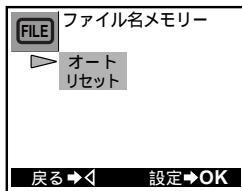
画像ファイル名の記憶方法を選択できます。「オート」にすると、パソコンに画像を取り込んだときにファイル名が重複しません。

設定値は、電源を切ったあとも保持されます。

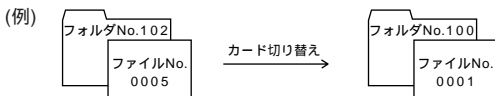
☞ **操作方法は、「撮影メニューの使いかた」(P.78)をお読みください。**

ファイル名とフォルダ名

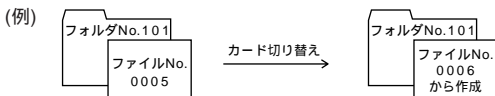
画像のファイル名と画像が入るフォルダ名は、それぞれ下記のように半角英数字でつけられます。ファイルNo.とフォルダNo.はカメラが自動的につけます。

※ ファイル名の「月」の表記は、1月〜9月は1〜9、10月はA、11月はB、12月はCとなります。

撮影メニューの選択項目

設定値について

リセット（出荷時の値）

カードを入れ替えたときに、フォルダNo.、ファイルNo.共にはじめに戻ります。

(例)

オート

カードを入れ替えたときに、フォルダNo.はそのままで、ファイルNo.が前に使っていたカードに記録されていたNo.の続きの番号になります。

(例)

パソコンに画像単位でコピーするときに複数のカードにまたがって大量に撮影をしても、ファイルNo.が重複しません。ただし9999枚以上撮影すると0001に戻ります。

フォルダNo.がそのままなのは、パソコンに画像をコピーしたときに、コピー元のフォルダ名とコピー先のフォルダ名は同じフォルダ名になり、上書きコピーで同じフォルダに画像を集められるからです（Mac OSでは、古いフォルダにある画像は消えてしまいます。ご注意ください）。

• フォルダNo.が最大の999で、ファイルNo.も最大の9999に達すると、カードに残量があっても撮影可能枚数が0になり、撮影できません。このときはカードを交換してください。撮影できるようになり、設定値に関わらず、フォルダNo.が100でファイルNo.が0001の画像ファイルから記録されます。

• セットしたカードにすでにファイルがあり、そのファイルのファイルNo.が取り外したカード内のファイルのファイルNo.よりも大きい場合、ファイルNo.は別の方法でつけられます。新たに撮影したファイルのファイルNo.は、カード内の最も大きいファイルNo.の続きになります。

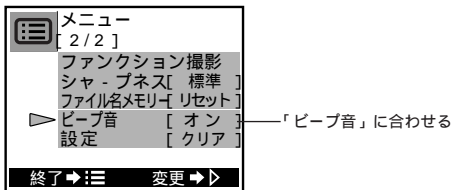
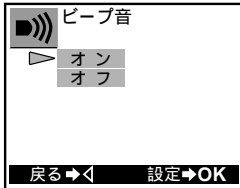
警告音を鳴らさない

結婚式の撮影や、動物の撮影では、カメラの警告音が障害になります。そのようなときは、ビープ音の設定値を「オフ」に変更します。

設定値は、電源を切ったあとも保持されます。

☞ **操作方法は、「撮影メニューの使いかた」（P.78）をお読みください。**

撮影メニューの選択項目

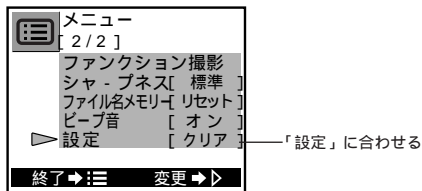
「ビープ音」に合わせる

設定値について

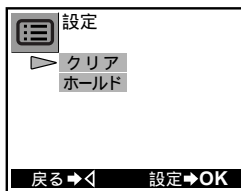
オン（出荷時の値）
操作によって、警告音が鳴ります

オフ
警告音は鳴りません

電源を切っても設定を残すには

「電源を切ったあとの設定値」（P.77）の表中の「記憶」欄が△の選択項目は、電源を切ると出荷時の設定値に戻ります。「ホールド」に変更すると、これらの設定値の変更を電源を切っても保持するようになります。

☞ **操作方法は、「撮影メニューの使いかた」（P.78）をお読みください。**

撮影メニューの選択項目

設定値について

クリア（出荷時の値）

P.77の「記憶」欄が○の選択項目のみ、設定値を保持します。

フラッシュの設定は「赤目軽減発光」のみ保持します（P.67）。

ホールド

P.77の「記憶」欄が○の選択項目に加えて△の選択項目でも、設定値を保持します。

フラッシュの設定をすべて保持します（P.65）。
ただし、電池を抜くと、△は出荷時の設定値に戻ります。

6

再生の上級テクニック

撮影メニューで撮影した動画は、再生メニューで再生します。そのほかにも、再生に役立つさまざまな機能が再生メニューにあります。
次のページで使いたい機能を見つけたら、まず「再生メニューの使いかた」（P.108）を読んで再生メニューの操作を覚えてください。続いて、それぞれの機能のページに進んでください。

再生メニューの役割

画像を順番に自動再生したり、モニタの明るさを調整するには、再生メニューの設定値を変更します。動画を再生したり編集したりするときも、再生メニューを表示します。

☞ **メニューの操作方法については、「再生メニューの使いかた」（P.108）を参照してください。**

選択項目	目的	ページ
ムービー再生※1	動画を再生できます。	P.110
自動再生※2	画像を自動的に順に再生できます。	P.112
No.表示	画面右下のコマNo.の表示を、画像のファイルNo.の表示に変更できます。	P.113
ファンクション※1	動画の初めや終わりに余分な部分があるとき、余分な部分を削除できます。	P.114
カード機能※2	機能付カード（別売）を利用できます。	—
カードセットアップ 全コマ消去	プロテクトした画像を残して、すべての画像を消去できます。	P.116
カードセットアップ フォーマット	カードフォーマットが必要なときだけ行ってください。	P.117
日時設定	日時を設定できます。	P.29
インデックス表示	画像のインデックス表示のときに、画面に並べる画像の数を設定できます。	P.119
モニタ調整	液晶モニタの明るさを調整できます。	P.120

※1：動画を液晶モニタに表示しているときのみ、再生メニューに表示されます。

※2：静止画を液晶モニタに表示しているときのみ、再生メニューに表示されます。

電源を切ったあとの設定値

選択項目には、電源を切ったあとも設定値を保持しているものと、出荷時の設定値に戻るものと、設定値を変更できないものがあります。

下の表は、変更できる選択項目と、その設定値です。出荷時の設定値は（ ）で表されています。

選択項目	設定値			記憶
自動再生	ゆっくり	**（早く）**		–
No.表示	**（コマ No.）**	ファイル No.		–
日時設定	(2000年1月1日0時00分)			○
インデックス表示	4	**（9）**	16	○
モニタ調整	（調整バーの中央に設定されています）			○

表中の「記憶」欄の記号は、選択項目ごとの下記の特徴を表しています。

○ 再び変更するまで、設定値を保持しています。

ー 電源を切ると、出荷時の設定値に戻ります。

注意

- **電池を抜いて放置したり、電池が切れているとすべての設定値が出荷時の状態に戻ります。**

再生メニューの使いかた

文中の【選択項目】と【設定値】は、目的によって選ぶ項目や値が異なる部分です。これらについては、それぞれのページを参照してください。

1 レンズバリアが閉じている状態で、液晶モニタボタンを押します。

再生モードで電源が入り、しばらくすると撮影された最新の画像が液晶モニタに表示されます。

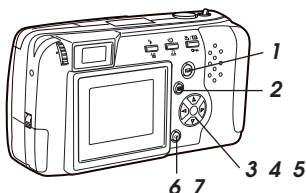
3

メニュー
[1/2]
自動再生 [早く]
No.表示 [コマNo.]
カード機能
カードセットアップ
日時設定 '00. 1. 1 0:00
終了➡ 変更➡▷

矢印

2ページあるうちの1ページ目です

5

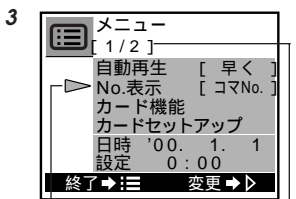
No.表示
コマNo.
ファイルNo.
戻る➡◁ 設定➡OK

2 メニューボタンを押します。

液晶モニタに再生メニューが表示されます。

3 十字ボタンの △ ▽ を押して画面の矢印を動かし、【選択項目】に合わせます。

（左図の例では、【選択項目】は「No.表示」です。）

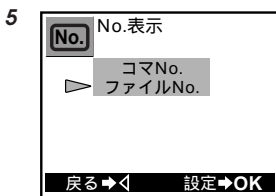
選択した選択項目が緑色になります。

このときに、現在の設定値を確認できます。設定値は項目名の右隣に［ ］で表示されます。

4 十字ボタンの ▷ を押します。

その項目の設定内容が表示されます。

5 十字ボタンの △ ▽ を押し、【設定値】に合わせます。

（左図の例では、【設定値】は「ファイルNo.」です。）

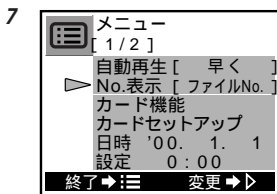
選択した設定値が緑色になります。

6 OKボタンを押します。

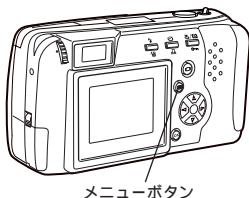
設定が変更され、メニューの最初の画面が表示されます。

7

メニュー
[1/2]
自動再生 [　早く　]
▷ No.表示 [ファイルNo.]
カード機能
カードセットアップ
日時 '00. 1. 1
設定 0:00
終了➡☰　変更➡▷

7 設定を変更したことを確認し、もう一度OKボタンを押します。

設定が記憶され、メニューが消えます。

変更をキャンセルするには

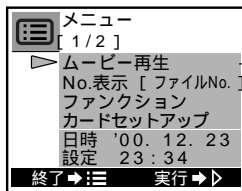
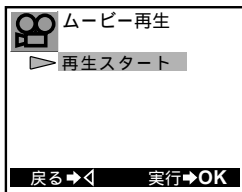
手順6で、OKボタンの代わりにメニューボタンを押します。

電源を切ると元に戻るものがあります

選択項目によって、電源を切ると設定値が元に戻るものと、そのまま保持されるものがあります（P.107）。

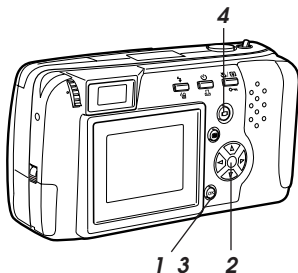
動画を再生する

動画を再生するときは、再生メニューを表示する前に、あらかじめ動画（🎥）マークのついた再生したい画像を表示しておきます。

☞ 操作方法は、「再生メニューの使いかた」（P.108）をお読みください。

再生メニューの選択項目

設定値について

再生スタート

表示中の動画を再生します。

（OKボタンを押してからしばらくすると、画像が動き始めます。）

再生中の操作

1 **再生を一時停止するには、OK ボタンを押します。**

2 **一時停止中は、下記の操作ができます。**

△ →動画の先頭へ戻る
▽ →動画の最後へ進む
▷ →コマ（フレーム）送り
◁ →コマ（フレーム）送り（逆方向）

3 **再生を再開するには、OK ボタンを押します。**

4 **終了するには、メニューボタンを押します。**

再生メニューに戻ります。

別の動画を再生するには

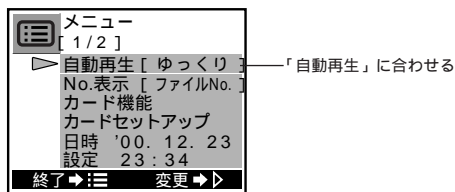
メニューボタンを押して再生メニューを終了します。再生する動画を選択してから、再生メニューを表示しなおしてください。

画像を順に再生する

画像を順番に、自動的に表示します。カード内の画像を順に鑑賞したいときに便利です。

再生メニューを表示する前に、**あらかじめ動画（🎥）マークの“ついていない”画像を表示しておきます。**

☞ **操作方法は、「再生メニューの使いかた」（P.108）をお読みください。**

再生メニューの選択項目

設定値について

ゆっくり
画像を1枚ごとに15秒間ずつ表示します

早く（電源を入れたときの値）
画像を1枚ごとに2秒間ずつ表示します

（OKボタンを押すと、「自動再生」を開始します。）

終了するには

自動再生を終了するには、メニューボタンを押します。

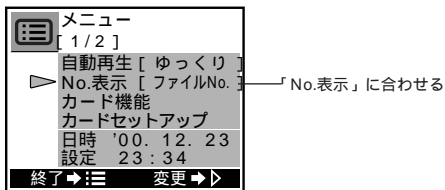
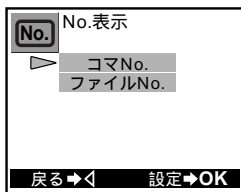
カード内の画像をすべて表示しても、自動再生は止まりません。なお、電池で使用している場合には、なにも操作をしないで放置すると、30分ほどで電源は自動的に切れます。

コマNo.とファイルNo.の表示を変更する

再生時、液晶モニタの右下には画像のコマNo.が表示されています。この表示を、一時的にファイルNo.（P.100）に変更できます。

☞ **操作方法は、「再生メニューの使いかた」（P.108）をお読みください。**

再生メニューの選択項目

「No.表示」に合わせる

設定値について

コマNo.（電源を入れたときの値）

- カードの何番目の画像かを示します。
- 画像を消去すると、以降の画像のコマNo.は変化します。

ファイルNo.

- 画像ファイルにつけた番号です（P.100）。
- ファイルNo.の表示中は、日時は表示されません。
- ファイルNo.表示に設定しても、一覧表示中（P.53）はコマNo.表示になります。

電源を切ると設定値は元に戻ります

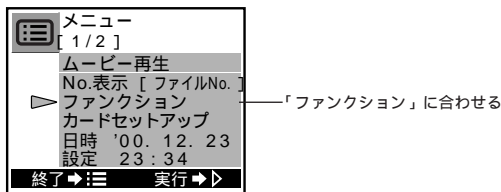
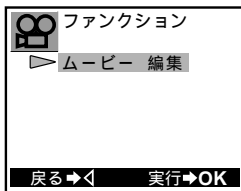
電源を切ると、「コマNo.」に戻ります。

動画の前後を削る

動画の撮影では、失敗を避けるために前後に余裕を持って撮影することがあります（P.92）。このような不要な部分を削除できます。

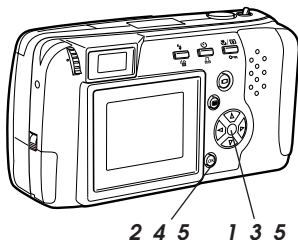
再生メニューを表示する前に、あらかじめ動画（🎥）マークのついた編集したい画像を表示しておきます。

☞ **操作方法は、「再生メニューの使いかた」（P.108）をお読みください。**

再生メニューの選択項目

設定値について

ムービー編集
動画の最初と最後を削れます

編集の操作

1 新たに動画の先頭にしたいフレームを選びます。

▷ →コマ（フレーム）送り
◁ →コマ（フレーム）送り（逆方向）
△ →動画の先頭へ戻る
▽ →動画の最後へ進む

1

3

5

2 OKボタンを押します。

先頭フレームが決定され、液晶モニタは後尾フレーム選択表示になります。

3 新たに動画の最後にしたいフレームを選びます。

▷ →コマ（フレーム）送り
◁ →コマ（フレーム）送り（逆方向）
△ →新しい先頭フレームに戻る
▽ →動画の最後へ進む

4 OKボタンを押します。

最終フレームが決定されます。

5 保存方法を選択し、OKボタンを押します。

新規作成 →新しい動画として保存します
上書保存 →編集前の動画を消去し、新しい動画を保存します
中止 →編集を中止します

再生メニューに戻ります。

注意
- **このカメラ以外で作成された動画は編集できないことがあります。**

すべての画像を消去する

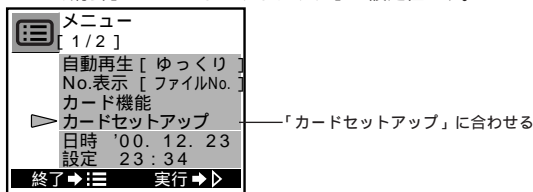
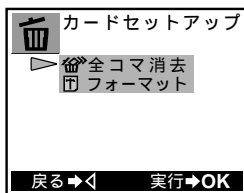
カード内のすべての画像を消去します。ただし、プロテクトされた画像は消去されません（P.56）。

☞ 操作方法は、「再生メニューの使いかた」（P.108）をお読みください。

消去の前に確認してください

- 消去された画像は元に戻せません。使用済みカードを全コマ消去する時には、大切なデータを消さないようにご確認ください。ただし、プロテクトされた画像は消去されません。
- ライトプロテクトシールが貼ってあるカードでは、消去できません。ライトプロテクトシールをはがしてから消去してください。はがしたライトプロテクトシールは再使用しないでください。

再生メニューの選択項目

「全コマ消去」は「カードセットアップ」の設定値です。

設定値について

全コマ消去
カード内のすべての画像を消去します

フォーマット
（別の機能です。詳しくはP.117）

- **消去中にカードカバーを開けたり、ACアダプタ、電池、カードを抜くと、カード内のデータが破壊される恐れがあります。**

カードを初期化する

オリンパス製ではないカードや、パソコンで初期化あるいは使用したカードは、書き込み時間が長くなったり、撮影可能枚数が少なくなることがあります。このようなカードを、カメラで初期化します。初期化済みのオリンパス製カードのご使用をお勧めします。

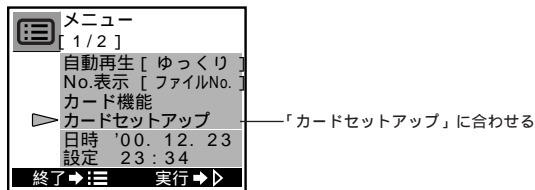
初期化が必要なカードを入れた場合は､コントロールパネルにカード警告マークが点灯し､自動的に初期化モードに入ります。

☞ **操作方法は､「再生メニューの使いかた」(P.108)をお読みください。**

初期化の前に確認してください

- プロテクトをかけた画像を含む、カード内のすべての画像が消去されます。使用済みカードを初期化する時には、大切なデータを消さないようにご確認ください。
- 一部の機能付きカードを初期化すると、カードの機能は失われます。詳しくは、カードの取扱説明書をお読みください。
- ライトプロテクトシールが貼ってあるカードは、初期化できません。ライトプロテクトシールをはがしてから初期化してください。はがしたライトプロテクトシールは再使用しないでください。

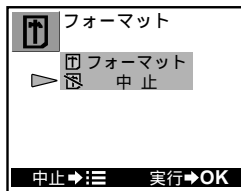
再生メニューの選択項目

「フォーマット」は「カードセットアップ」の設定値です。

設定値について

全コマ消去
（別の機能です。詳しくはP.116）

フォーマット
カードを初期化します

初期化の実行と中止

カードセットアップで「フォーマット」を選んでOKボタンを押すと、次の画面が表示されます。

フォーマット
初期化を実行します

中止
初期化をキャンセルします

- **いったん初期化を実行すると、途中で中止できません。**
- **初期化中にカードカバーを開けたり、ACアダプタ、電池、カードを抜くと、カードが正常に動作しなくなる恐れがあります。**

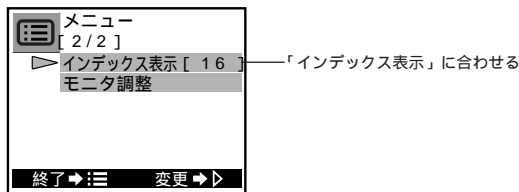
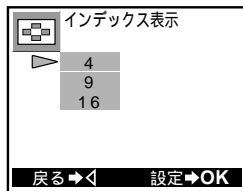
一覧表示のコマ数を変更する

再生モードでは、ズームレバーを押してカード内の画像を一覧表示できます（P.53）。このときに液晶モニタに表示する画像の数を、「インデックス表示」で変更できます。

設定値は、電源を切ったあとも保持されます。

☞ **操作方法は、「再生メニューの使いかた」（P.108）をお読みください。**

再生メニューの選択項目

「インデックス表示」に合わせる

設定値について

4 ：液晶モニタを4分割して表示します

9 ：液晶モニタを9分割して表示します。（出荷時の値）

16 ：液晶モニタを16分割して表示します

※16分割のときは、画像のコマNo.は表示されません。

画像を一覧表示するには

インデックス表示の設定に従い、画面を4〜16分割して画像を一覧表示できます。操作方法については、「まとめて再生しましょう」（P.53）を参照してください。

液晶モニタの明るさを調節する

液晶モニタの明るさを調節できます。

設定値は、電源を切ったあとも保持されます。

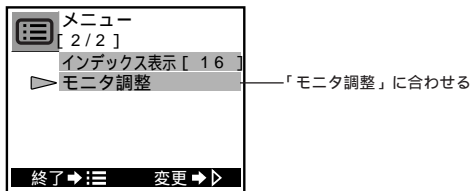
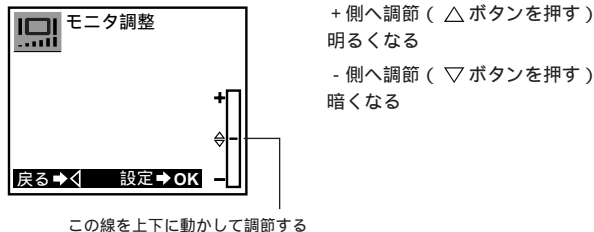
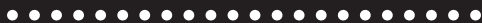
☞ **操作方法は、「再生メニューの使いかた」(P.108)をお読みください。**

再生メニューの選択項目

設定値について

この線を上下に動かして調節する

＋側へ調節（ △ ボタンを押す）
明るくなる

－側へ調節（ ▽ ボタンを押す）
暗くなる

7

プリントしましょう

DPOF対応のプリンタやラボでは、スマートメディアを持ち込むだけで、選んでおいた静止画をプリントできます。持ち込む前に、カメラで静止画を選択しておきましょう。

CAMEDIA

こんな方法でプリントできます

カード内の画像は、以下の方法でプリントできます。

DPOF対応プリンタやラボでプリントする

あらかじめカードにプリントする画像を予約しておくと、DPOF対応のプリンタに取り付けたり、DPOF対応のラボに持ち込んだとき、プリントする画像をその場で指定する必要がありません。（ただし、枚数は設定できません。）

専用プリンタ（別売）を使う

専用プリンタのカードスロットに撮影済みのカードを差し込んで、プリンタ側で簡単なボタン操作をするだけで画像をプリントできます（P.127）。

パソコンに接続したプリンタを使う

次の装置などでパソコンに画像を取り込み（P.130）、画像をプリントできるソフトウェアを使って、パソコンに接続されているプリンタからプリントできます。

- パソコン接続キット（別売）
- フロッピーディスクアダプタ（別売）
- PC カードアダプタ（別売）
- スマートメディア・リーダ/ライタ（別売）

プリントの方法は、それぞれの製品の取扱説明書をお読みください。

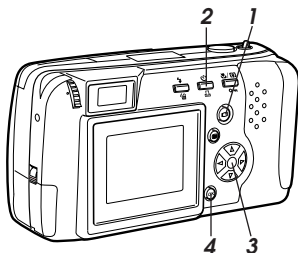
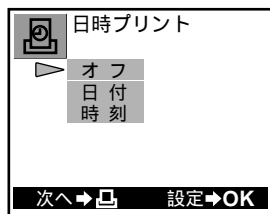
DPOFについて

DPOFとはデジタルカメラの自動プリント情報を記録するフォーマット（Digital Print Order Format ）のことです。

画像を保存したカードにプリントしたい画像を指定しておくと、DPOF対応のプリントサービスや家庭用のDPOF対応プリンタで簡単にプリントできます。

- 他のDPOF機器で設定した予約は、このカメラで変更できません。予約した機器で変更してください。
- 他の機器でDPOF予約したカードに、このカメラで新たにDPOF予約を行うと、他の機器で行った予約が解除されることがあります。
- オリンパスデジタルプリンタP-300など、カメラに接続するプリンタはご使用になれません。
- プリンタまたはラボにより、一部機能が制限されることがあります。

撮影日時をプリントしましょう

DPOF対応プリンタやラボでプリントする場合、撮影した日付や時刻を入れてプリントできます。

液晶モニタ（日時プリント画面）

1 **レンズバリアが閉じている状態で、液晶モニタボタンを押します。**

2 **プリントボタンを押します。**

液晶モニタに日時プリント画面が表示されます。

2回押すとカードプリント予約画面になります。そのときは､もう1度押して再生モードに戻ってください。

3 **十字ボタンを押して、プリントに入れる情報を選択します。**

オフ→どちらも入れない
日付→撮影した日付を入れる
時刻→撮影した時刻を入れる
カード内のすべての画像に、この設定が反映されます。

4 **OKボタンを押します。**

設定され、再生モードに戻ります。

設定をキャンセルするときは

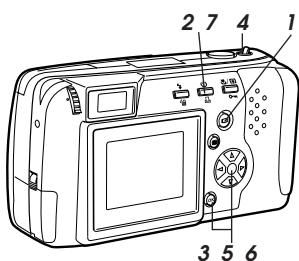
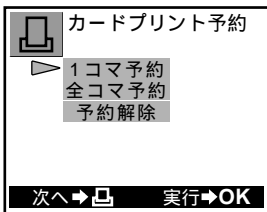
手順4で､OKボタンの代わりに液晶モニタボタンを押して､電源を切ります。

- 撮影前に、カメラに日時を正しく設定しておいてください。
- この機能は専用プリンタP-330N/P-330ではご使用になれません。プリンタ側の機能をお使いください。
- 再生モードに戻るまでに、少し時間がかかることがあります。

注意

- **設定を変更すると、すでにカードプリント予約（P.124）していた画像の設定も変更されます。**

プリントする画像を選びましょう

動画（🎥）マークのある画像は、プリントを予約できません。

液晶モニタ（カード予約画面）

プリントマーク

1 **レンズバリアが閉じている状態で、液晶モニタボタンを押します。**

再生モードで電源が入り、撮影された最新の画像が液晶モニタに表示されます。

2 **プリントボタンを2回押します。**

液晶モニタにカードプリント予約画面が表示されます。

もう1回押すと､再生モードに戻ります。

3 **十字ボタンを押して「1コマ予約」を選択し、OKボタンを押します。**

1コマ予約→プリント予約する画像を選択できます
全コマ予約→すべての画像をプリント予約できます
予約解除　→すべての予約を解除します

画像を選択する画面が表示されます。

4 **必要に応じて、ズームレバーを押して一覧表示できます。**

5 十字ボタンを押して、予約する画像を選択し、OKボタンを押します。

◁ ：1 枚前の画像を表示
▷ ：次の画像を表示
△ ：10 枚前の画像を表示
（一覧表示では 9 枚前）
▽ ：10 枚先の画像を表示
（一覧表示では 9 枚先）

選択した画像にプリントマークが表示されます。

6 予約を解除するときは、再び OK ボタンを押します。

選択した画像からプリントマークが消えます。

7 プリントボタンを押します。

カードに予約が保存され、再生モードに戻ります。

設定をキャンセルするときは

手順 3 または 4 で、OK ボタンの代わりにプリントボタンを押して、再生モードに戻ります。

手順 5 以降では、液晶モニタボタンを押して、電源を切ります。しかし、それ以前にされた予約は保存されます。

すべての画像をプリント予約するには

カード内のすべての画像をプリント予約するには、手順 3 で「全コマ予約」を選択します。再生モードに戻ります。

プリントが終わったら

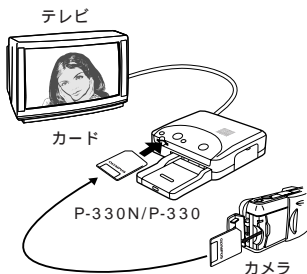
プリントしたあとも、プリント予約はカードに記憶されています。新たに画像を選択するには、予約前に必ず予約を解除してください。

手順 3 で「予約解除」を選択すると、カード内のプリント予約はすべて解除されます。

- プリンタまたはラボにより、一部機能が制限されることがあります。
- プリントマークが表示されるまでに、少し時間がかかることがあります。
- カードの空き容量がない場合や、ライトプロテクトシールが貼られたカードでは、プリント予約はできません。

専用プリンタでプリントするには

専用プリンタ P-330N/P-330（別売）はDPOF対応プリンタです。プリント予約（P.124）したカードを専用プリンタに差し込むと、簡単な操作で画像をプリントできます。

詳しくは、専用プリンタ P-330N/P-330 の取扱説明書をお読みください。

P-330N/P-330 の主な機能

1 コマプリント

マルチプリント（4、9、16 分割）

予約プリント

カメラ予約（カード予約）

トリミングプリント（1.5、2 倍）

日付プリント

転写プリント（左右反転）

機能付カード対応（合成テンプレート機能に対応）

- カメラのデータ入出力端子には、P-330N/P-330 を接続できません。
- カメラのビデオ出力端子に P-330N/P-330 を接続してプリントした場合、プリンタの性能を充分に発揮できません。

8

パソコンで撮影画像を加工しましょう

カメラの画像は、いくつかの方法でパソコンに持ち込み、さらに加工することができます。
ここでは、主にCAMEDIA Master 2.0（別売）を使った方法を紹介します。

画像をパソコンに読み込む方法

このカメラで撮影してカードに保存されている画像は、次の方法でパソコンに読み込めます。

なお、パソコンで動画を再生するには、あらかじめパソコンにQuickTimeをインストールする必要があります。パソコン接続キット（C-8KP=別売）のCAMEDIA Master 2.0をインストールすると、QuickTimeもインストールされます。

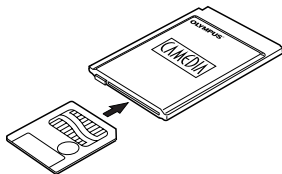
専用パソコン接続キットを使って読み込む

パソコン接続キット（C-8KP=別売）には、専用接続ケーブルと専用ソフトウェアが入っています。これらを使って、パソコンに画像を読み込めます。

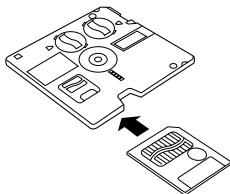
詳しくは、「専用ケーブルで接続する」と「CAMEDIA Masterで読み込む」を参照してください（P.132、P.137）。

スマートメディア用PCカードアダプタを使って読み込む

PCカードスロットまたは外付PCカードドライブがあるパソコンでは、PCカードアダプタ（MA-2=別売）を使って、カードから直接画像を読み込めます。

詳しくは、PCカードアダプタの取扱説明書をお読みください。

フロッピーディスクアダプタを使って読み込む

3.5型フロッピーディスクドライブのあるパソコンでは、フロッピーディスクアダプタFlashPath（MAFP-2/MAFP-2N=別売）を使って、カードから直接画像を読み込めます。

詳しくは、FlashPathの取扱説明書をお読みください。

スマートメディア・リーダ／ライタを使って読み込む

USB対応パソコンでは、スマートメディア・リーダ／ライタ（MAUSB-2=別売）を使って、カードから直接画像を読み込めます。

ご使用の前に、ご使用のパソコンがWindows 98またはMac OS 8.6以降のUSB対応パソコンであることをお確かめください。

詳しくは、スマートメディア・リーダ／ライタの取扱説明書をお読みください。

- パソコンの動作環境やカードの記憶容量などにより、ご使用になれない場合があります。ご使用前にお確かめください。
- ライトプロテクト（書き込み禁止）シールの貼ってあるカードをパソコンで使用すると、エラーが多発します。ご使用にならないでください。詳しくは、各アダプタの取扱説明書をお読みください。
- パソコンなどを使って画像ファイルのファイル名を変更したり、独自のフォルダ（ディレクトリ）に移したりすると、カメラの液晶モニタで再生できないことがあります。
- パソコンで、弊社製以外のアプリケーションで開いて保存し直した画像ファイルは、カメラの液晶モニタで再生できないことがあります。

専用ケーブルで接続する

パソコンの使用環境

パソコン接続キット（C–8KP=別売）をお使いになる場合は、お持ちのパソコンをご確認のうえ、次の条件でご使用ください。

詳しくは、パソコン接続キット内のCAMEDIA Masterのオンラインマニュアルを参照してください。

DOS/V機（IBM PC/AT互換機）（2000年6月現在）

OS	：Windows 98SE/98/95/ 2000Professional/NT 4.0
CPU	：Pentium 以上
ハードディスクの空き容量	：30MB以上
メモリ	：32MB以上
シリアルポート　規格	：標準RS-232Cインターフェイス
形状	：D-SUB 9ピン
モニタ	：256色以上、800×600ドット以上 推奨32000色以上

Apple Macintosh（2000年6月現在）

OS	：Mac OS 7.6.1～9.0.4
CPU	：PowerPC以上
ハードディスクの空き容量	：30MB以上
メモリ	：32MB以上
シリアルポート	：プリンタポートまたはモデムポート
モニタ	：256色以上、800×600ドット以上 推奨32000色以上

※iMacやiBookなど、USBポートを採用した機種では使用できません。

NEC PC-9821およびPC98-NXシリーズ（2000年6月現在）

OS	：Windows 98SE/98/95/ 2000Professional/NT 4.0
CPU	：Pentium以上
ハードディスクの空き容量	：30MB以上
メモリ	：32MB以上
シリアルポート　規格	：標準RS-232Cインターフェイス (19200bps以上の通信速度が必要)
形状	：D-SUB 9ピン
モニタ	：256色以上、800×600ドット以上 推奨32000色以上

パソコンとの接続

パソコン接続キット（C–8KP=別売）の専用ケーブルでパソコンと接続します。ご使用のパソコンの機種によって、接続方法が異なります。

1 CAMEDIA Masterを、あらかじめお持ちのパソコンにインストールしておきます。

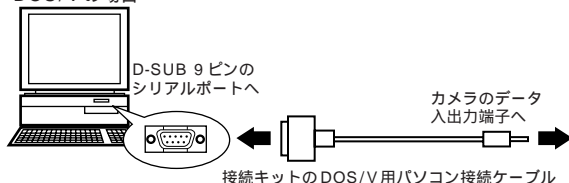
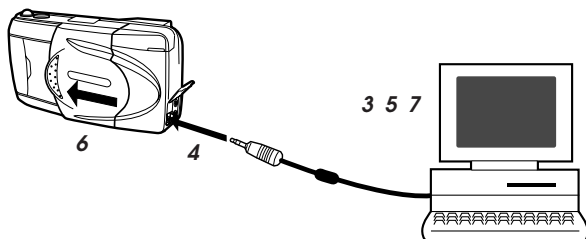
インストール方法については、CAMEDIA MasterのCD-ROMのオンラインマニュアルを参照してください。

2 パソコンとカメラの電源が切れていることを確認します。

3 パソコン側の「COM1」「COM2」などと書かれているシリアルポートに、DOS/V用パソコン接続ケーブルを差し込みます。

Apple Macintosh、NEC PC-9821およびPC98-NXシリーズの場合は、「変換コネクタが必要なパソコン」を参照してください（P.135）。

DOS/Vの場合

接続キットのDOS/V用パソコン接続ケーブル

8 パソコンで撮影画像を加工しましょう

4 **カメラのコネクタカバーを開けて、パソコン接続ケーブルのプラグをカメラのデータ入出力端子に差し込みます。**

5 **パソコンの電源を入れます。**

6 **カメラのレンズバリアを開けます。**

7 **CAMEDIA Masterを起動します。**

- カメラの電源が入っている状態でパソコンと接続すると、カメラが正しく作動しない場合があります。パソコンと接続するときは、必ずカメラの電源が切れていることを確認してください。
- パソコンに接続したときは、カメラのボタン類は一切動作しなくなります。
- レンズバリアが閉じていると、CAMEDIA Masterは通信できません。

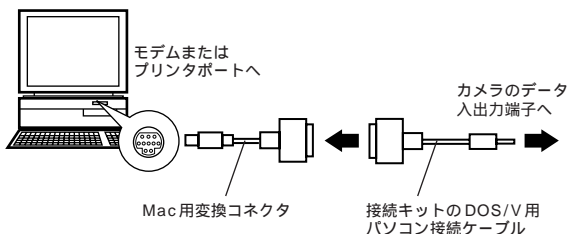
- 電池の消耗を防ぐため、AC アダプタ(別売)の使用をお勧めします。

変換コネクタが必要なパソコン

次のパソコンでは、DOS/V用パソコン接続ケーブルに変換コネクタを取り付けてください。

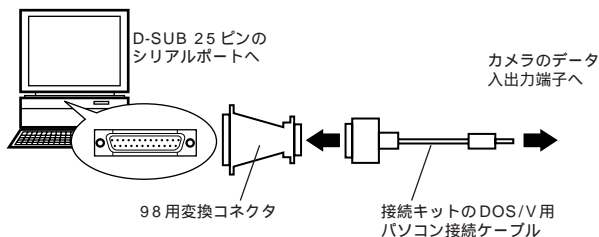
Apple Macintosh

まず、Macintosh用変換コネクタに、DOS/V用パソコン接続ケーブルを差し込みます。

次に、パソコン側のプリンタポートまたはモデムポートに、Macintosh用変換コネクタを接続します。

NEC PC-9821シリーズ

まず、パソコン側の「RS-232C」と書かれたシリアルポートに、98用変換コネクタを差し込みます。

次に、シリアルポートに差し込まれている98用変換コネクタに、DOS/V用パソコン接続ケーブルを差し込みます。

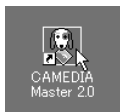
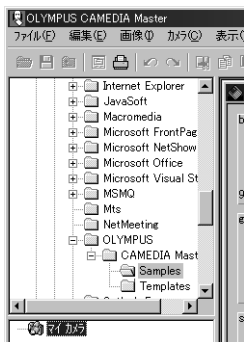
PC-98-NXでは、変換コネクタは使用しません。

NEC PC-98ノートパソコン（14ピンの場合）

まず、パソコン側の14ピンのシリアルポートに、変換コネクタ（PC-9821N-K04=別売）を差し込みます。

次に、シリアルポートに差し込まれている変換コネクタに、DOS/V用パソコン接続ケーブルを差し込みます。

CAMEDIA Masterで画像を読み込む

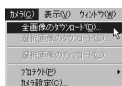
パソコン接続キットのCAMEDIA Master 2.0を使うと、カメラにある画像をパソコンで確認し、パソコンに読み込めます。

※画面はWindows版のものです。

1 **パソコンで、CAMEDIA Masterを立ち上げます。**

2 **CAMEDIA Masterの［マイカメラ］アイコンをクリックします。**

カメラ内の画像が一覧表示されます。

カードを入れていないと、画像は表示されません。

3 **見たい画像にカーソルを合わせ、ダブルクリックします。**

選択した画像が拡大して表示されます。

4 メニューバーの［カメラ(C)］で［全画像のダウンロード(D)］を選択します。

カメラからパソコンに画像が読み込まれます。

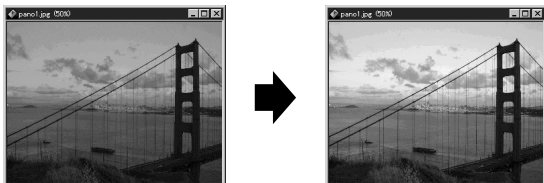
パソコンに読み込んだ画像は、CAMEDIA Master以外にもJPEG形式の画像を扱えるグラフィックソフト（PaintShopPro／Photoshopなど）や、インターネット閲覧ソフト（Netscape Communicator／Microsoft Internet Explorerなど）でも見ることができます。詳しくは、対応ソフトのマニュアルをお読みください。

CAMEDIA Masterの機能紹介

画像の読み込みのほかにも、画像を加工して保存することもできます。操作方法については、CAMEDIA Masterのオンラインマニュアルをお読みください。

暗い画像を明るくする

撮影した画像を見ると、思っていたよりも暗いことがあります。撮影直後であれば再び撮影できますが、シャッターチャンスを逃すこともあります。

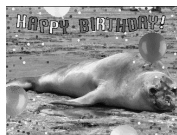
そんなときには、ワンタッチ補正で簡単に画像を明るくできます。

ボケている画像を修正する

逆光で画像全体がはっきりしない場合や、被写体の手前の物体がボケている場合があります。

画像を見て「失敗」と思う前に、シャープネスを使ってみましょう。画像を全体的にシャープにして、ボケを和らげることができます。ただし、ボケを完全に取り除くことはできません。

テンプレートと合成する

簡単にシールプリントのような画像を作れます。

画像をCAMEDIA Masterのテンプレートと合成してみましょう。

＋
＝
CAMEDIA Masterのその他の機能

カメラとの通信

シリアルポートを使って、カメラ内の画像ファイル（静止画、動画）を読み込めます。また、カメラの各種設定（プロテクト設定・解除、データ消去、日付時刻の設定、その他設定変更）もサポートしています。

画像ビューワー

カメラから読み込んだ画像ファイルを一覧表示（インデックス表示）したり、1枚ずつ表示したりできます。また、エクスプローラ風のフォルダ階層表示とドラッグ&ドロップによる操作で、画像を簡単に管理できます。

動画ファイルの再生や、静止画ファイルと動画ファイルの自動再生（スライドショー）もできます。

加工

画像を様々に加工できます。

- 回転（右90度、左90度、180度、任意角度）
- 色数変更
- サイズ変更
- テキスト挿入
- 各種フィルタ処理（明るさ、コントラスト、カラーバランス、シャープネスなど）

一括処理

インデックス表示のウインドウで、複数の画像を一括して処理（画像の回転、フォーマット変換、ファイル名変換など）できます。

カメラ連携機能

パノラマ合成　　　：標準カードのパノラマモードで撮影した画像を、パノラマ画像に合成できます。

テンプレート合成：別売のテンプレートカードにオリジナルテンプレート画像を書き込めます。テンプレート画像と撮影した画像を、カメラで合成できます。

印刷

画像を様々に印刷できます。

- 1 枚ずつ印刷
- 日付入りで 1 枚ずつ印刷
- 複数枚のインデックス（レイアウト）印刷
- 2 分割、4 分割、16 分割のシール印刷

※画面例は Windows 版のものです。Windows 版と Mac OS 版では一部の機能が異なります。

9

付 録

故障かなと思ったときには、以降のページを参照してください。

Q & A

Q **電池はどの位もちますか。**

A 同梱のアルカリ電池を使用した場合、100枚以上の撮影ができます(フラッシュ50%使用時)。ただしこれは一応の目安で、液晶モニタの使用時間、フラッシュの使用頻度、電池の種類、使用環境温度などによって大きく変わります。特に液晶モニタを点灯させたままにすると電池の消耗が激しいので、こまめに電源を切るようにしてください。別売の専用ACアダプタを使用しますと電池寿命を心配しなくてすみます。

なお、本書に記載されている電池による撮影枚数は、当社試験条件、当社指定の電池による参考値です。

Q **画像データに記録される日付が正しくないのですが。**

A 出荷時には日付設定されておりませんので､撮影前に日付設定をしてください(P.29)。CAMEDIA Master 2.0(別売)を使うと､パソコンから設定できます。なお､カメラから電池を抜いて約1時間放置すると､設定は解除されます。

Q **フィルターやフードは取り付けられますか。**

A 取り付けられません。

Q **外付けフラッシュは使用できますか。**

A 使用できません。またスレーブユニットも正常に動作しません。

Q **フラッシュを使用して人物撮影をしたら、目が赤く写ってしまったのですが。**

A どのカメラでも､フラッシュを用いた人物撮影では目が赤く写ることがあります。これは､網膜がフラッシュの光を反射するために起こる現象です。個人差が大きく､また周囲の明暗などの撮影条件によっても異なります。一般的には東洋人は出にくく､西洋人は出やすい傾向にあります。

赤目軽減発光モードを使用することにより、発生頻度を大幅に軽減できます（P.67)。

Q **カメラはどのように保管すれば良いのですか。**

A カメラはホコリ、湿気、塩分を嫌います。よくふいて乾燥させて、保管してください。海辺で使ったあとは、真水で浸した布を硬く絞ってふき取ると良いでしょう。防虫剤の使用は避けてください。また、長期保管の場合は電池を抜いてください。

修理に出す前にお確かめください

操作上のトラブル

カメラが動かない。

原因	こうしましょう	参照ページ
電源が切れている。	レンズバリアをあけて、電源を入れてください。	P.34
電池の向きが正しくない。	電池を正しく入れ直してください。	P.25
電池がない。	新しい電池を入れてください。	P.25
寒さで電池の性能が一時的に低下した。	電池をポケットなどで温めてから使用してください。	—
節電機能が働いた。	レンズバリアをいったん閉めて、再び開けてください。	P.34
パソコンに接続している。	パソコンに接続中は、カメラは動作しません。	P.134

フラッシュが発光しない。

原因	こうしましょう	参照ページ
フラッシュが閉じている。	フラッシュを開けてください。	P.45
明るい被写体である。	フラッシュを強制的に発光させたい場合は強制発光モードにしてください。（連写モード、パノラマモード、動画撮影モードでは、フラッシュはご使用になれません。）	P.67

液晶モニタが見にくい。

原因	こうしましょう	参照ページ
液晶モニタの輝度の設定が適切ではない。	液晶モニタの輝度調節をしてください。	P.120
太陽光の下である。	太陽の光を手などでさえぎってください。	—
液晶モニタが壊れている。	修理に出してください。	P.152

シャッターボタンを押しても撮影ができない。

原因	こうしましょう	参照ページ
フラッシュの充電が完了していない。または、撮影後の処理中である。	一度シャッターボタンから指を離し、オレンジランプまたは緑ランプの点滅が終わってから撮影してください。	P.41 P.45
カードに問題がある。	エラーメッセージをご参照ください。	P.151
カードの容量がいっぱいになった。	カードを交換するか、不要なコマを消去するか、画像をパソコンなどに転送して全コマ消去を行ってください。	P.28 P.57 P.130
撮影中やカードの書き込み中に電池がなくなった。	電池を新品と交換してください。	P.25
電池残量が少なくなった。	電池を交換してください。(カード記録中の場合、完了するまでお待ちください。)	P.25
カードにライトプロテクトシールが貼られている、またはカメラにカードが入っていない。	新しいカードを入れて下さい。	P.28
再生モードになっている。	レンズバリアを開けてください。	P.34
内蔵メモリがいっぱいになっている。	シャッターボタンから指を離し、しばらく待ってカードへの書き込みが進んでから撮影してください。	P.41 P.42

液晶モニタ上で再生ができない。

原因	こうしましょう	参照ページ
撮影モードになっている。	レンズバリアを閉じて、液晶モニタボタンを押し、液晶モニタを点灯させてください。	P.50
カードに画像が記録されていない。	液晶モニタに「画像が記録されていません」と表示されます。撮影してから再生してください。	P.40
カードに問題がある。	エラーメッセージをご参照ください。	P.151
テレビに接続している。	テレビに接続中は、液晶モニタは消灯します。	P.55

画像のプロテクト、1コマ消去、全コマ消去、初期化ができない。

原因	こうしましょう	参照ページ
カードにライトプロテクトシールが貼られている。	シールを剥がしてからご使用ください。シールは再使用しないでください。	—

パソコンとつないだとき、データ転送中にエラーメッセージが出る。

原因	こうしましょう	参照ページ
ケーブルが正しく接続されていない。	正しく接続されていることを確認してください。	P.133
カメラの電源が切れている。	レンズバリアを開けてください。	P.34
電池がない。	新しい電池を入れるか、ACアダプタ（別売）をお使いください。	P.25 P.27
パソコンのシリアルポートが正しく設定されていない。	パソコンでシリアルポートが正しく設定されていることを確認してください。	—

画像の出来が良くない場合

できあがった画像が明るすぎる。

原因	こうしましょう	参照ページ
フラッシュモードが「強制発光」になっていた。	「強制発光」以外のフラッシュモードを選んでください。	P.65
高輝度の被写体に向かって撮影した。	露出補正をするか、カメラの向きを変えるなどの工夫をしてください。	P.80

できあがった画像が暗い。

原因	こうしましょう	参照ページ
フラッシュを指などで覆ってしまった。	カメラを正しく構え、フラッシュを覆わないように気をつけてください。	P.38
撮りたいものがフラッシュ撮影範囲よりも遠くにあった。	フラッシュ撮影可能な範囲内で撮影してください。	P.45
フラッシュが閉じていた。	フラッシュを開けてください。	P.45
逆光状態で小さい被写体を撮影した。	フラッシュを「強制発光」にセットするか、スポット測光モードで撮影してください。	P.67 P.82
連写モードで撮影した。	シャッタースピードが早いために、暗い場所では通常よりも暗く写ります。	P.90

室内で写した写真の色がおかしい。

原因	こうしましょう	参照ページ
照明の色が影響した。	フラッシュのモードを「強制発光」にセットして撮影してください。	P.67
被写体に白い部分がなかった。	画角に白い被写体を入れて撮影するか、照明に合わせてホワイトバランスを設定してください。	P.86
ホワイトバランスの設定を間違えた。	照明に合わせてホワイトバランスを設定してください。	P.86

画像の一部が欠けてしまった。

原因	こうしましょう	参照ページ
レンズに指やストラップがかかってしまった。	カメラを正しく構え、レンズに指やストラップをかけないように気をつけてください。	P.38
撮影距離が近かった。	液晶モニタを使ってください。	P.39

ピントの合っていない写真ができた。

原因	こうしましょう	参照ページ
シャッターボタンを押すときにカメラが動いてしまった。（手ぶれ）	カメラを正しく構え、シャッターボタンを静かに押してください。	P.38 P.41
ピントを合わせたいものが、オートフォーカスマークからはずれてしまった。	ピントを合わせたいものを画面中央に持ってくるか、フォーカスロック撮影を行ってください。	P.62
レンズが汚れていた。	レンズをきれいにしてください。	—
使用しているモードが違っていた。	0.2～0.8mの範囲に被写体がある場合はマクロモードを使い、それより遠い場合は通常モードを使ってください。	P.39 P.70
セルフタイマ撮影で、カメラの直前に立ってシャッターボタンを押した。	カメラの前に立たず、ファインダをのぞきながらシャッターボタンを押してください。	P.74
フラッシュの必要な状況で、フラッシュを「オート発光」または「強制発光」に設定できない理由があった。	シャッタースピードが遅くなり、露出時間が長くなりますので、三脚をご使用になるか、カメラをしっかり構えてください。	P.67 P.68 P.69
ワンタッチフォーカスで被写体距離を確認せずに撮影してしまった。	ワンタッチフォーカスの焦点が合う範囲で撮影してください。	P.64

エラーメッセージ表

このカメラでは各種の警告をエラーメッセージで表示します。（コントロールパネルの表示は点滅します。）

警告 液晶モニタ表示	エラー内容	対応
カード無し警告 [!] **カードを認識できません**	カードが入っていません。または認識しません。	カードを入れてください。または、カードを入れ直してください。
カードフル警告 [!] **撮影可能枚数が 0 です**	撮影可能枚数が 0 のため撮影できません。	カードを交換するか、不要な画像を消去してください。
ライトプロテクト警告 [!] **書き込み禁止になっています**	カードが書き込み禁止になっています。	撮影をする場合はプロテクトシールをはがしてください。
カードエラー警告 [!] **このカードは使用できません**	撮影・再生・消去することができません。	クリーニングペーパーでカードの端子を拭き、もう一度挿入してください。初期化できない場合、このカードはご使用になれません。

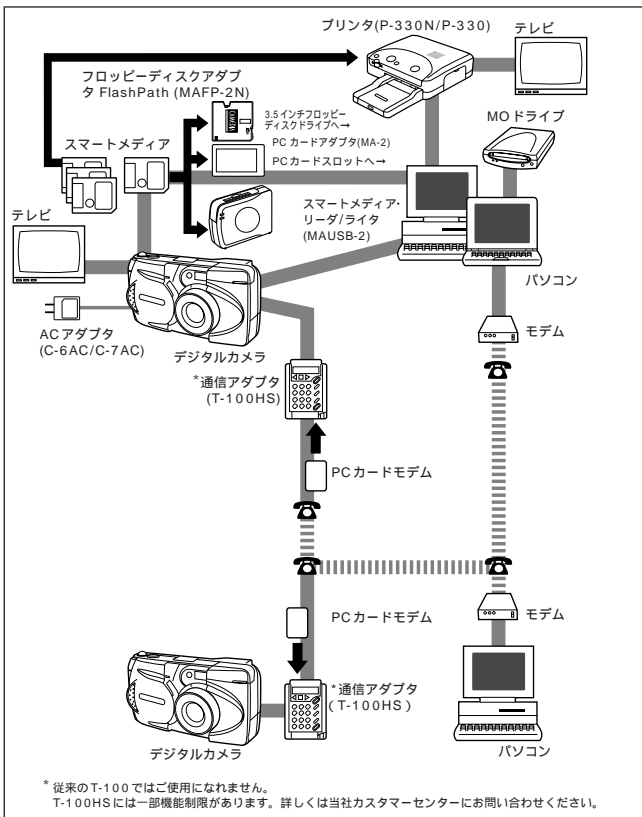
アフターサービスについて

- 保証書はお買い上げの販売店からお渡しいたしますので「販売店名・お買い上げ日」などの記入されたものをお受け取りください。もし記入もれがあった場合は、ただちにお買い上げの販売店へお申し出ください。また、保証内容をよくお読みの上、大切に保管してください。
- 本製品のアフターサービスに関するお問い合わせや、万一故障の場合はお買い上げの販売店、または裏表紙のオリンパスサービスステーションにご相談ください。使用説明書などに従ってお取扱いにより、本製品が万一故障した場合は、お買い上げ日より満一年間「保証書」記載内容に基づいて無料修理いたします。
- 保証期間経過後の修理等については原則として有料となります。また運賃諸掛かりはお客様においてご負担願います。
- 当カメラの補修用性能部品は、製造打ち切り後 5 年間を目安に当社で保有しています。したがって本期間中は原則として修理をお受けいたします。なお、期間後であっても修理可能な場合もありますので、お買い上げの販売店または、お近くのオリンパスサービスステーションにお問い合わせください。
- 本製品の保証、修理、サービスは日本国内でのみ有効です。海外では修理できません。万一、海外で故障や不具合が生じたときは、お持ち帰り後に日本国内のサービスステーションまでご依頼ください。
- 本製品の故障に起因する付随的損害(撮影に要した諸費用、および撮影により得られる利益の喪失など)については補償しかねます。

別売品との組み合わせかた

このカメラは、別売の機器と以下のように組み合わせてご利用になれます。

2000年6月現在

9
付録

別売品のご案内

● **パソコン接続キット（C-8KP）**
- CAMEDIA Master 2.0（Macintosh 、Windows 98SE/98/95/2000Professional/ NT4.0 用）
- DOS/V 用シリアルケーブル
- 98 変換ケーブル
- Mac 変換ケーブル

● **スマートメディア（8MB/16MB/32MB/64MB）**

● **機能付スマートメディア**
- テンプレートカード（4MB/M-4T）
- カレンダーカード（4MB/M-4C）
- 手書きタイトルカード（4MB/M-4N）

● **専用プリンタ（P-330N）**

● **AC アダプタ（C-7AC）**

● **ニッケル水素電池（B-03NH16）**

● **ニッケル水素電池専用充電器（BU-40SNH）**

● **PC カードアダプタ（MA-2）**
＊64MB スマートメディアまで対応

● **フロッピーディスクアダプタ FlashPath（MAFP-2N）**
＊64MB スマートメディアまで対応
＊DOS/V：Windows 98SE/98/95/2000Professional/NT4.0
＊PC-9821：Windows 95（OSR2 以降）/98
＊Power Macintosh：漢字 Talk 7.5.1 以降（QuickTime 2.5 以降が必要）（Read only）

●**スマートメディア・リーダ／ライタ（MAUSB-2）**
＊64MB スマートメディアまで対応
＊Windows 98、Mac OS 8.6 以降用

以上は 2000 年 6 月現在の情報です。
別売品の最新情報については、オリンパスホームページ（http://www.olympus.co.jp）をご覧ください。

画像ファイルの互換性について

このカメラで撮影した画像を他のオリンパスデジタルカメラで再生する場合、および他のオリンパスデジタルカメラで撮影した画像をこのカメラで再生する場合は、以下のような制限があります。

このカメラで撮影、他のカメラの液晶モニタで再生

対応状況	機種名
再生	C-3030ZOOM, C-2020ZOOM
静止画のみ再生	C-2500L, C-2000ZOOM, C-960ZOOM, C-920ZOOM, C-860L, C-21, C-21T.commu
非対応	C-1400XL, C-1400L, C-1000L, C-900ZOOM, C-840L, C-830L, C-820L, C-420L

他のカメラで撮影、このカメラの液晶モニタで再生

対応状況	機種名
再生	C-2020ZOOM, C-2000ZOOM, C-1400XL, C-1400L, C-1000L, C-960ZOOM, C-920ZOOM, C-900ZOOM, C-860L, C-840L, C-830L, C-820L, C-420L, C-21, C-21T.commu
制限あり※	C-3030ZOOM, C-2500L

※ 1600×1200ドットより大きい静止画は再生できません。
5MBを越える動画ファイルは再生できません。

仕様

形式	： デジタルカメラ(記録・再生型)
記録方式	
静止画	： デジタル記録、JPEG、TIFF非圧縮（DCF準拠）/DPOF対応
動画	：QuickTime Motion JPEGに準拠
記録媒体	： 3V (3.3V) スマートメディア 2MB、4MB、8MB、16MB、32MB、64MB
記録コマ数	： 約1枚(SHQ-TIFFモード／8MBカード) 約5枚(SHQモード／8MBカード) 約16枚(HQモード／8MBカード) 約32枚(SQ高画質モード／8MBカード) 約82枚(SQ標準モード／8MBカード)
消去	： 1コマ消去、全コマ消去
撮像素子	： 1/2.7型（インチ）CCD固体撮像素子 211万画素(総画素数)
記録画素数	： 1600 X 1200 ピクセル (SHQ-TIFF・SHQ・HQモード) 640 X 480 ピクセル (SQ・SQ-高画質モード)
ホワイトバランス	： フルオートTTL、プリセット （晴天、曇天、電球、蛍光灯）
レンズ	： オリンパスレンズ 5.4～16.2mm、F2.8～4.4、6群8枚(35mmフィルム換算35～105mm相当)
測光方式	： 撮像素子によるデジタルESP測光方式、スポット測光
露出制御方式	： プログラム自動露出
絞り*	： W：F2.8、F5.6 T ：F4.4、F8.6
シャッター*	： 1/2～1/1000秒 (メカニカルシャッター併用） *マニュアル設定はできません。

撮影範囲	：	0.8m～∞(通常モード） 0.2m～0.8m(マクロモード）
ファインダ	：	光学実像式ファインダー(オートフォーカスマーク/逆光自動補正マーク)、液晶モニタ
液晶モニタ	：	1.8型（インチ）TFTカラー液晶
モニタ画素数	：	約61,000画素
オンスクリーン表示	：	日付時刻、コマNo.、プロテクト、画質モード、電池残量、ファイルNo.、プリント予約、メニュー、他
フラッシュ充電時間	：	約8秒以下(常温時、新品電池使用)
フラッシュ撮影範囲	：	W ：約0.2m～4m T ：約0.2m～2.6m
フラッシュモード	：	オート発光(低輝度時自動発光、逆光時自動発光)、赤目軽減発光、発光禁止、強制発光、スローシンクロ、赤目軽減＋スローシンクロ
コントロールパネル	：	画質モード、撮影可能枚数、カード警告/カード機能、フラッシュモード、セルフタイマー、電池残量、連写、マクロモード、スポット測光モード、プリセットホワイトバランス、ISO、露出補正、シャープネス、書き込み中を表示
オートフォーカス	：	TTL方式AF
検出方式	：	コントラスト検出方式／焦点調節範囲：0.2m～∞
セルフタイマー	：	作動時間約12秒
外部コネクタ	：	DC入力端子、 データ入出力端子 (RS-232C)、 ビデオ出力端子 (NTSC方式)
日付・時刻	：	画像データに同時記録
自動カレンダー機能	：	2030年まで自動修正
カレンダー用電源	：	内蔵キャパシタによるバックアップ

カード機能　：パノラマ合成
　別売の機能付カード使用時
　：テンプレート合成､カレンダー合成､
　手書きタイトル合成
使用環境
　温度　：０～４０℃(動作時)／
　－２０～６０℃(保存時)
　湿度　：３０～９０%(動作時)／
　１０～９０%(保存時)
電源　：単３アルカリ電池、ニッケル水素電池、
　リチウム電池、またはニッカド電池４本。
　あるいはCR-V3（当社製LB-01）リチウム電池パック２個。単３マンガン電池は使用できません。
大きさ　：幅127mm×高さ66.5mm×厚さ53mm
　(突起部含まず)
質量　：２７０g(電池／カード別)

外観・仕様は改善のため予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承ください。

索引

英数

あ

か

さ

た

な

は

ま

や

ら

わ

OLYMPUS®

オリンパス光学工業株式会社

〒163-8610　東京都新宿区西新宿1の22の2　新宿サンエービル

アクセスポイント（製品に関するお問い合わせ）

- **札　幌 ………………… 011-231-2338**
- **仙　台 ………………… 022-218-8437**
- **東　京(八王子)……… 0426-42-7499**
- **名古屋 ………………… 052-201-9585**
- **大　阪 ………………… 06-6252-0506**
- **広　島 ………………… 082-222-0808**
- **福　岡 ………………… 092-724-8215**

※上記のアクセスポイントまで電話をかけていただければ、オリンパスカスタマーサポートセンターに転送されます。アクセスポイントまでの電話料金はお客様のご負担となりますので、ご了承ください。

営業時間　10：00〜17：00（土・日曜、祝日及び弊社定休日を除く）

※オリンパスホームページ　http://www.olympus.co.jpでデジタルカメラ及び関連製品の技術提供をしております。

国内サービスステーション（修理受付窓口）

※土・日曜、祝日および年末年始は原則として休みます。オリンパスプラザ内の東京サービスステーションは土曜も営業しております。

地区	〒	住所	Tel.
東　京	〒101-0052	千代田区神田小川町1の3の1　小川町三井ビル(オリンパスプラザ内)	Tel.03(3292)1931
札　幌	〒060-0034	札幌市中央区北4条東1丁目2の3　札幌フコク生命ビル	Tel.011(231)2320
仙　台	〒981-3133	仙台市泉区泉中央1丁目13-4 泉エクセルビル	Tel.022(218)8421
新　潟	〒950-0087	新潟市東大通り2の4の10　日本生命新潟ビル	Tel.025(245)7337
松　本	〒390-0815	松本市深志1の2の11　松本昭和ビル	Tel.0263(36)5331
名古屋	〒460-0003	名古屋市中区錦2の19の25　日本生命広小路ビル	Tel.052(201)9571
金　沢	〒920-0961	金沢市香林坊1の2の24　千代田生命金沢ビル	Tel.076(262)8257
大　阪	〒542-0081	大阪市中央区南船場2の12の26　オリンパス大阪センター	Tel.06(6252)6991
高　松	〒760-0007	高松市中央町11の11　高松大林ビル	Tel.087(834)6166
広　島	〒730-0013	広島市中区八丁堀16の11　日本生命広島第2ビル	Tel.082(228)3821
福　岡	〒810-0001	福岡市中央区天神1の14の1　日本生命福岡ビル	Tel.092(761)4466
鹿児島	〒892-0846	鹿児島市加治屋町12の7　日本生命加治屋町ビル	Tel.099(225)1105
沖　縄	〒900-0015	那覇市久茂地3の1の1　日本生命那覇ビル	Tel.098(864)5396

1AG6P1P0769- -　　**VT125700**